

サロン（モーケン）のアンダマン海の遊動の追跡的研究

A follow-up study on the migratory behavior of the Salon (Moken) in the Andaman Sea

大澤 清二¹, Than Naing², Tin Hone³, San U⁴, 下田 敦子¹

¹ 大妻女子大学人間生活文化研究所

² ミャンマー連邦共和国・民族問題省・部長

³ ミャンマー連邦共和国・教育省・タニンダーリ地方域教育事務所

⁴ ミャンマー連邦共和国・教育省・ザガイン地方域教育事務所

Seiji Ohsawa¹, Than Naing², Tin Hone³, San U⁴, and Atsuko Shimoda¹

¹ Institute of Human Culture Studies, Otsuma Women's University, Tokyo, Japan

² Ministry of Ethnic Affairs, Republic of the Union of Myanmar, Myanmar

³ Ministry of Education, Tanintharyi Division, Republic of the Union of Myanmar, Myanmar

⁴ Ministry of Education, Sagaing Region, Republic of the Union of Myanmar, Myanmar

*Corresponding author: 1, 12 Sanban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, 102-8357 Japan

キーワード：サロン，モーケン，移動，アンダマン海

Key words : Salon, Moken, Migration, Andaman Sea

抄録

サロン（モーケン）の遊動の全貌についてはこれまでの民族誌や報告の中では記述されていない。それ故に彼らの行動の全貌を捉えることができなかった。彼らの1年間の行動の半分は、遊動であるから、遊動行動を明らかにしなければサロンの全貌を知ることにはならないし、また現実的な問題として、サロンの人口とその構成、教育、医療、福祉など生存と生活に関係した諸問題を明らかにし、支援することもできない。

本研究では、学術的な関心とともに、彼らの現実生活の基盤でもある遊動の概要を把握する調査を行った。この調査では72家族、462人のサロンを対象にして、その出航から帰航までの全過程を航行ルートと遊動した日数、立ち寄る島々、そして推定された最短遊動距離などを明らかにした。調査結果から、72家族は9グループに分かれて行動しており、1回の遊動で、46日から110日をかけており、その漁撈を伴う推定最短遊動距離は525～1,323kmであった。遊動範囲はミエ諸島の北緯9度43分～13度01分が南北の、東経97度40分～98度35分が東西の遊動範囲であって、この範囲を出るものではなかった。遊動中に立ち寄る島々も明らかにしたが、特に拠点となる地点も判明した。

この調査結果がサロンの人口調査をはじめ生活の改善（教育、医療、福祉、公民権の行使など）に少しでも役に立つことを願うとともに、関係各方面で有効に活用されることを期待している。

1. 狩猟採集民の遊動研究の目的

インド洋の東方海域をアンダマン海^{註1}と呼び、マレー半島に沿って南北に約 800 余の島嶼と岩礁からなるミエ諸島^{註2}がある。この海域には、人類史的には最古のライフスタイルとされる遊動狩猟採集活動を今なお行っている少数民族サロン（モーケン）^{註3}がいる[1]（写真1）。

この研究ではアンダマン海上におけるサロンの遊動^{註4}を追ひ、その航海経路の位置と島嶼の名称、時期、日数を明らかにする。

2. 研究の意義

この研究の主たる目的は、現代における遊動狩

猟採集民研究^{註5}の核心の1つでもある、サロンの遊動行動の実態と、その軌跡を明らかにすることである。また、こうした学術上の目的とともに、サロンの人々の現代社会における福祉、教育、医療などの生活支援を実現するために、不可欠な基礎情報を得るという目的も併せもっている。

サロンは1年の半年程度の期間、アンダマン海を遊動している^{註6}。この間の居所は定まらず、現在も曖昧なままである。サロン社会は今なお無文字社会^{註7}であり、その子弟は例外的にしか就学しておらず、成人の殆どは読み、書き、計算など、現代社会で市民としての生活するための基本的能力を欠いたままである。ちなみに2010～2015年に、この共同研究に関連して、現地調査に協力してくれた400名余りのサロンの子どもは全員が未就学であった。

サロンが無文字社会のままであり、住所不明の遊動民^{註8}であることは、実際にミャンマー連邦共和国（以下、ミャンマーとする）で行われてきた人口調査（国勢調査）^{註9}や選挙などに際して国民としての権利や義務の行使を妨げており、国や国連諸機関、国際NGOなどが行おうとする医療・福祉・教育サービスの円滑な実施の障害となってきた。また、彼らを慢性的に蝕んできた麻薬使用^{註10}や感染症^{註11}対策、災害（津波やサイクロン）や戦争の危険などの緊急を要する情報伝達や救援などの障害となってきた。本研究は現実にはサロンが抱えている数多くのハンディキャップの原因となっている遊動の実態を明らかにすることが主たる目的であり意義である。

3. サロンとモーケン

サロン（*Salon*）はモーケン（*Moken*）とも呼ばれる。しかし、タイ王国（以下、タイとする）側に住むモーケンとミャンマー側に住むサロンとは、そのライフスタイルにおいて、現在は全く異質なものとなっている。タイ側のモーケンは既に海洋における遊動生活を止めて陸に定住し、タイ国民として、その多くは優れた身体能力とダイビングや操船の技能を活かして観光業、レジャー産業などに従事しており、ライフスタイルはタイ人^{註12}のそれと大きくは変わらなくなっている。ところがミャンマー側のサロンは依然として、太古さながらに海洋を遊動して狩猟採集生活を送っている。



写真1. サロンの男性が素潜りでウニを捕らえたところ。水中眼鏡は漂流物で自作したもの。

（研究協力者 Daw Za Win 撮影. 2013年12月、タヨタダンジー島周辺海域）

このようなわけで、タイとミャンマーのサロンは生業やライフスタイルにおいて、同等に位置づけることができない。本論では、両者の混同を避ける意味もあってモーケンではなくサロン（*Salon* または *Salone*）という名称を用いる。

本論で対象としているのは、サロン人口^{註13}の一部を占めるタヨタダンジー島を中心とした地域の人々を指している。この他にもミエ諸島の南部にもサロンの集落が存在し、これらの人々については調査対象となっていないことを付言しておく。

4. 本研究における問題の所在

ミャンマー政府は2014年に民族問題省を新設して、サロンの就学や医療、福祉の改善にその関心を向けている。そこでは先ず、サロンの人口を把握することからはじめ、次いで公共サービスを届ける予定であった。同省はアンダマン海域・ミエ諸島においてサロンの人口調査を開始したが、もとより無文字社会という環境で戸籍はなく、届け出も非常に不完全で、しかも居所が流動的であることから、調査は当然のように困難であった。そこで、雨季^{註14}に海岸に建てられた仮小屋（写真2）の数から世帯数を予想し、それに平均的と考えられる一家族の成員数を乗じて推算するという、大雑把な人口推計しかできなかった。現在もサロンの正確な人口推計はできていない。こうした事情からも、先ず彼らの居所を正しく把握することが最初の問題となっている。



写真2. 雨季に海岸に建てられた仮小屋。世帯数の推定は、こうした仮小屋の数を基に平均的な家族成員数を乗じて行われた。(著者 (San U) 撮影, 2012 年 9 月 ドンニャウンマイ (Don nyaung maing) 於)

19 世紀に英国が同地を統治した時代より、何人かの研究者や軍などがサロンの所在や行動調査を行ったが、いずれの場合も、人口は把握できなかった[2][3]。その最大の理由は、彼らの居所が不定で、半年間は海洋を遊動しており、連絡も途絶していることであった。この状況は 19 世紀と現在でほぼ変わっていない。

遊動はサロンが国民として受けるべき諸サービスや、彼らが抱える生活上の諸問題を解決するための大きな障害になってきた。そこで、21 世紀に入ってミャンマー政府は、サロンの未就学や医療、福祉の状態を改善しようと、取り組みを開始した。そのためには先ず、サロンがいつ、どこを遊動しているのか、という基礎情報が必要であり、しかる後にサロンの抱える問題の内実を個々に明らかにしてゆくこととなる。

本論ではサロンの遊動行動の全貌を把握する第一段階として、以下の 3 点に焦点を当てた。

- 1) サロンの遊動の実態を知るために、先ず遊動する行動範囲の把握を行う。遊動ルートを地図上で把握し、立ち寄る（あるいは停泊する島嶼の正確な位置と現地語（サロンが使用する）島嶼名及び集落名を同定する。
- 2) 遊動の日数、その具体的な期間（出航日から帰航日）を明らかにする。
- 3) 船団の構成を明らかにする。

ここでは、遊動の位置と時間を把握することを目的としているが、この研究に続く課題としては、

遊動中の彼らの活動（漁撈方法、収穫物の交換とその経済、*Kaban*（家船、えぶね）のメンテナンス、遊動中のライフスタイルなど）に関する多くの課題が残されている。実はこれまでに既知となっている文献情報は、サロンが遊動を一時停止して、雨季に島々に停泊している期間の活動を調査したものであって、遊動中の動態は全く触れられてこなかったのである。

4.1. サロンの生活

本論に入る前にサロンのライフスタイルを略述しておく。サロン（民族）は 21 世紀の現在では、地球上に極めて稀少になってしまった遊動狩猟採集民の 1 つである。著者らがミャンマー民族問題省の情報をもとに行った人口推定では、おおよそ 2,700 人近傍であった[1]。この推定値は民族問題省が把握できた世帯数を根拠にした概数である。この人口規模は 1 世紀前に White[3]が推測した規模とほぼ同じ程度である。これに従えば、概ね過去 1 世紀間で、サロン人口には大きな変化がなかったと言えそうである。

サロンは 1 年のうち雨季（5 月～10 月）の半年間はミエ諸島の島々の海浜に小屋を設けて、島内で植物採集や小動物の狩猟、海浜における貝、ウニ、ナマコなどの採集を行っている。しかし、養殖や栽培、家畜の飼育などは他の狩猟採取民と同じく行わない。

乾季（11 月～4 月）には家族全員が海洋を遊動して、もっぱら漁を行っている。それ故に研究者たちはサロンを *Sea Gypsy* と呼び[2][4][5][6][7]、現在でもサロンというと、人々は海洋をあてなく漂海している放浪の民というイメージを想像している。

4.2. 家船 (*Kaban*) の役割

サロンは遊動中、睡眠、団欒、休養、育児、調理、食事などの日常の活動を、家船^{註15} (*Kaban*)

(写真3)を中心として営んでいる。*Kaban* は単に移動手段としてだけでなく、食、住の生活の場であり、また銛漁、釣り漁、獲物の処理などの生業の場でもあって、彼らの遊動行動の拠点（母船）であり、最大の財産でもある。彼らの人生は誕生から死に至るまで、*Kaban* とともにあるともいえる。

サロンは遊動に際して、主要な家財を全て *Kaban* に運び込んでいる(写真4)。かつては動力はむろん人力であって、家族全員で櫓を漕ぎ、帆を



写真3. サロンの遊動生活の中心となる家船(Kaban). 移動と生活の拠点であり、家族の時間が営まれる場所。(大澤撮影, 2013年12月, タヨタダンジー島)



写真4. Kabanの船内に設けられた簡素な調理場。床には日常の掃除に使うほうきが置かれている。研究協力者 Daw Za Win 撮影。2013年12月, タヨタダンジー島周辺海域)

操って航海をしていた。近年では Kaban にはエンジンを使用するようになった。また、この他に浅瀬やマングローブで使用する Chapan^{註16}と呼ぶ小型の丸木舟を何艘も一緒に曳航している。この丸木舟は、大人なら1人乗りで、浅瀬を縦横に移動し俊敏に行動する際に利用する。子どもたちにとっては海上の遊具ともなり、移動手段ともなっている。子どもたちは Chapan を器用に操って海上を遊び回る(写真5)。Chapan は船底を丸くくり抜いた丸木舟で、非常に不安定で、操作は難しく、不慣れであれば数秒もたたないうちに転覆してしまう。

生業としての漁撈は、主として素潜りと銛によって行われている。時々釣竿を用いるが、網漁は使用せず、他の漁獲方法も用いない。写真6は

Kaban から銛漁をするサロンの男性である。伝統的にウミガメ漁^{註17}も行われてきた。捕獲した魚や亀などは Kaban で管理される。この素潜り漁は人類史上でも最も古く単純な方法である。

4.3. Kaban の製作, 価格, 耐用年数

Kaban の製作は、材料の大木(ミエ諸島によくみられる *Hopea Odorata*, フタバガキ科ホペア属の高木)の伐採に始まり、造船は男子たちが共同作業で行う。彼らは僅かな工具(斧, たがね, 手動式のドリルなど)を使って巧みに Kaban を製作する。これらの工具は貴重な財産であって、遊動中にも工具類を持参して修理を行っている。成人男子は誰もが船大工である。Ivanoff, J. は20世紀末に彼らの家船作りの詳細な記録を、その父 Ivanoff, P. (1924-1974) が収集した貴重な写真とともに編集して公表している[8]。

Kaban は自ら製作する他に、売買の対象ともなる。2015年の時点では、大きな Kaban なら約200~300万チャット(ミャンマーの通貨単位, チャット(Kyat)の日本円換算レートは、当時では1チャットあたり約0.1円程度), 小さな丸木舟なら約10~50万チャット程度であると聞いた。また、耐用年数は使用する材料や手入れの違いによるバラツキはあるものの、ほぼ6~10年程度であるという。

4.4. 生育場所としての Kaban

子どもたちは Kaban の生活のなかで生育する。子どもは親の遊動に同道し、Kaban の近くで遊び、親たちの生活技術を見よう見まねで学習してゆく。



写真5. 浅瀬やマングローブで使う小型丸木舟 Chapan. 大人の作業用であると同時に、子どもたちの遊びと移動の道具でもある。(San U 撮影, 2012年8月)

サロンの子どもにとって、*Kaban* は家であり、教室であり、そして生活技術の全てを学ぶトレーニングルームである。遊動が子どもたちを鍛え、育てている。海洋的自然のなかで、彼らを時間的、空間的に拘束する人為的な制約は一切なく、自由そのものである。



写真 6. *Kaban* から水中の獲物を目掛けて鉈を放つサロンの男性。伝統的な鉈漁は今も生活を支える重要な技術である。Photo by Pyi Soe Tun. “*The Lights, Infront of My Lens, Fine Art Photography,*” Dawei United Group Co., Ltd., 2020.

サロンがアングマン海を遊動する季節は、海が穏やかであるが、雨季（5 月～10 月）は波浪が高く、また同海域は浅瀬が多く、マングローブが発達しているために座礁や転覆の危険が高く、操船は困難である。現在でもこの海域を航行する定期船は雨季には欠航が非常に多く、著者らも調査活動に支障をきたした経験がある。

4.5. 遊動研究を妨げた島嶼名の混乱の解決

サロンが数ヶ月に及ぶ遊動中に停泊し、立ち寄って日用品の調達を行い、獲物との交換などを行う島々はどこであろうか。彼らの停泊地には有人島のほか多数の無人島もある。その遊動期間の長さからして停泊地は多数カ所に及ぶと推測されるが、これまでにその記録はない。

サロンは遊動中、それらの島々に上陸して貝やナマコ、ウニ、ツバメの巣などの他に、食用の植物、果物などの採集を行い、小動物の狩りをすることもある。

採集した収穫物は自家消費だけではなく、借金の支払いや販売に使われることもあり、生活物資と交換することもある。立ち寄る島々では飲料水、米、ガソリン、塩などの生活必需品を購入することもある。この島嶼名を特定することが遊動研究としては重要である。

しかしこれまでに、その島嶼の位置と名称が確認されたことはなかった。そもそも島嶼名が混乱していて特定できなかったのである。具体的には以下のようなものである[1]。

- ・ 固有名詞である島嶼名が一義的に決定していない。
- ・ サロンが呼称する島嶼名と英語、ドイツ語、タイ語などの通称が殆どの場合で一致しない。
- ・ 各国から出版されている地図上の表記間でも食い違いが多い。

この混乱振りは、かつてこの海域の資源調査をしていた Cholmeley, F.N.^{註 18} が友人のサロン研究者で民族誌家の Ivanoff, P. に宛てた書簡でも既に指摘している[5]。いわく、Cholmeley, F.N. が使用したイギリス製の 20 万分の 1 と、5 万分の 1 の地図上では 248 の島が無名であったこと。また、島嶼名があっても同名の島が幾つも存在するなどの混乱があったというのである。

著者らの調査でも、Cholmeley, F.N. の指摘する諸点の他に、英語、ビルマ語、カレン語の他に、サロン語やダーウェイ語^{註 19} そしてパーリ語の名称まで混在していたし、複数の島からなる群島に対して島嶼名が 1 つしかない場合もあった。

さらに事情を複雑にしていたのは、各国から出版されている各種の地図間で多数の島嶼名が相互に食い違っていて一致していなかったのである[1]。

この混乱は国際的に使用されている海図や航空地図、観光用地図、道路地図などで見られる。更に遊動研究を行う上で不都合なのは、現地のサロンたちが日常使用する島嶼名とこれらが全く一致しないので、位置を同定しようがないのである。

この問題に対応するために著者らは、同海域に浮かぶミエイ諸島のうちで岩礁や位置情報としての価値の低い小島を除く主要な島々 287 について、現地呼称と旧英領時代の名称をすべて比較対照し、その地図上の正確な位置を確認するという作業を行った[1]。

そのうち一例をあげる。ミエイ諸島南部の主要な島で、サロンが遊動中に立ち寄ることが多い、北緯 10 度 08 分、東経 98 度 11 分に位置する無人島には、いくつかの名前が付けられていた。旧英領時代には、Saint Lukes Island とよび、1948 年のビルマ連邦国の独立後は、ビルマ語で *Za det kale kyun* と表示した。しかし現在、地元では *Pa law kar*

kyun と呼んでいる。したがって地元の呼称を最優先にして島嶼名を統一するべきであるという考え方に従うと、この島は *Pa law kar kyun* と表示するのが望ましい、ということになる（引用文献 [1]Appendix 1 の“253”番目を参照。本論には付録として付けている）。こうした準備の上で、本研究ではこの成果 [1] を基礎にして、サロンの遊動の軌跡の調査に取り組んだのである。

4.6. 先行研究の欠如と本研究の関係

サロンに関する民族誌や紀行文、新聞や雑誌などの記事は 19 世紀中葉からの過去 2 世紀間に、主としてフランス語、ドイツ語、英語で、ライフスタイル、信仰、葬礼、結婚、物質文化、家船製作などについての知見が多数の研究者によって報告されてきた。しかしサロンの生業である漁撈のために行う遊動に関しては、その全体像は依然として分かっていない [1][2][4][5][6][7][9][10]。

彼らがどの様な船団を編成し、どの島から遊動に出て、どの島に立ち寄り、どの様なルートを経て、何日間の遊動を行っているのか。それらがどの様な方向性を持ち、どのようなタイミングで停泊地に戻るのか、という遊動の場所と時間に関する実態は現在まで未知のままである。

西欧の研究者達はサロンを称して *Sea Gypsy*、漂流民と呼び、彼等が海の放浪者であり、遊動の航路も天候と獲物しだいで、その日の風まかせに海洋を放浪していると考えてきたのである。これらの研究者たちは、サロンの行動の最も重要な特徴である遊動行動の実態には関心をもたなかったようで、危険を孕む洋上の遊動には同道しなかった。そこで研究者たちはサロンがいずれかの島に上陸して海浜に仮小屋を建て、陸上の生活を行っているところをもっぱら調査してきた。数多くのサロン研究者が登場したが、長期に亘ってその存在が空白となる遊動の実態は未知なのである。やがてこの遊動という空白が、サロンの教育、医療、福祉、生活を国や国際機関などが保証、支援しようとした時に、その諸活動を阻む重要な問題となってきたのである。

5. 調査方法

遊動の位置、時期、航路に関する調査は以下のように行われた。

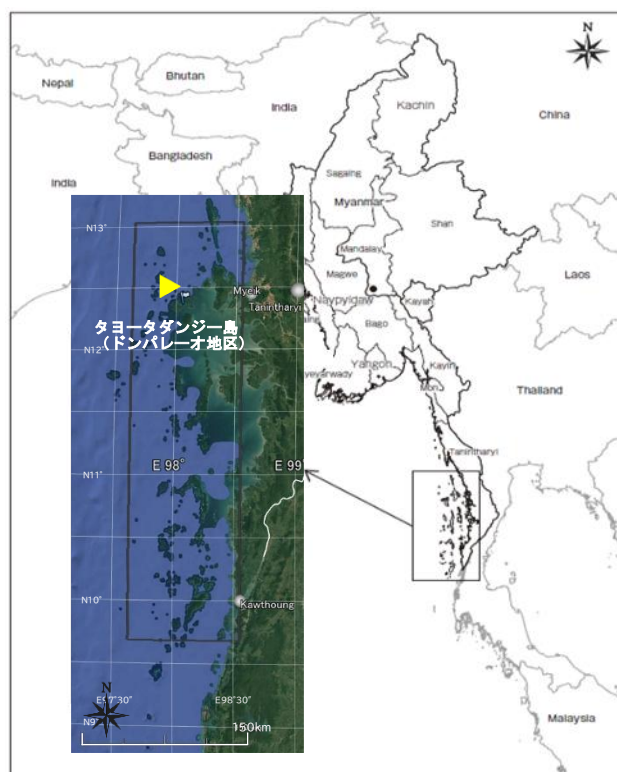


図 1. 調査地

出典: Google Earth Pro imagery © Google. Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO. Image Landsat / Copernicus.

調査時期: 2015 年後半から 2016 年前半の乾季における直近の遊動状況を調査した^{註 20}。

調査対象者: ミャンマー、タニンダーリ地方域^{註 21}、ミエ諸島の北部、タヨータダンジー島（旧英領時代の Elphinestone Island^{註 22}）の東海岸、ドンパレーオ地区^{註 23}の海浜に仮小屋を構えるサロン 72 家族を対象とした（図 1）。これは 2016 年の雨季の開始時点で現地に留まっていたサロンの全家族である。

インフォーマントは遊動について情報提供できる成人（男性 61 名、女性 11 名）であった。また彼らはタウンケーと呼ぶ、獲物を買取ったり航海の相談に乗ったりするサロン以外の人物とも関係があるので、その情報も参考にしながら 1 家族ずつ聞き取りを行っている。ちなみにサロンは核家族である。

調査者: インタビューに当たっては、ビルマ語を理解するカイン族^{註 24}のオピニオンリーダーの成人女性と、現地タヨータダンジー島ドンパレーオ小学校の女性校長及びサロン語^{註 25}の通訳 1 名と共同研究者らが世帯ごとに訪問調査を行った。共同研究者 3 名のミャンマー人はそれぞれ民族間

題省タニンダーリ地方域部長，同ミエイ市の小学校校長，同チョンスー教育委員会教育長である（肩書は当時のままである）。

調査項目：家族名，出航から帰航までの遊動の日程と経路，立ち寄った現地語による島嶼名及び主たる活動，その他特記する事項などについて長時間を掛けて聞き取り調査を行った。その結果，1家族ごとに得られた情報が，船団を構成したグループの家族間で日時，航路などで一致していることを確認している^{注26}。なお，遊動航路については1家族につき1つの航海図，合計72家族分を作製し，それを更にグループごとにまとめた。

6. 調査結果

6.1. 出航地と出航日

10月下旬，雨季が終了し，乾季が近づくといよいよ遊動に向けた準備が始まる。家船の整備や修理を行い，帯同する家族全員が使用する最低限の日用品類に調理器具，差し当たっての食糧などの他に，漁に使う銚や潜水用の足ひれ，水中メガネ（写真7），釣り竿（これらは全て手製）そして当座の航海で使用するガソリン，家船，丸木船の修理道具，現金などであり，また獲物を一時的に保存する氷も時に必要となる。

遊動にあたっては9グループの船団が編成されており，1グループの船団に編成されている家族は同じ航路を取っていた。ここで船団は近しい親族の集団（Clan）^{注27}を中心に編成されている。



写真7. サロンの漁具。銚，水中メガネ，磯網（採集した貝などを入れる），潜水用の足ひれ。（大澤所有）

全ての船団はタヨタダンジー島ドンパレーオ海岸から出航していた。位置は北緯12度21分，東経98度04分である（後出の図10のaの地点）。なお，本論で示す島名には，便宜上，著者らの前報[1]に従ってID:番号を付した（例：タヨタダンジー島[ID:45]，本論の付録）。番号は島名の識別を容易にするためのものであり，位置情報と対応する。

表1に示したように，最も小規模な船団はAグループの2家族で，最も大規模な船団はIグループの12家族であった。

これら家族はいずれも核家族であり，1家族は1艘のKabanに2～4人程度が乗り込んでいる。この期の遊動の総勢は462人であった。

遊動出航日を表2に示した。遊動の季節は，ミャンマー暦^{注28}のダディンジュ月からダグー月，すなわち太陰太陽暦の10月14日から4月17日までであり，これはほぼ一年の半分に当たっている。

調査では，出航が最も早いグループはBグループとIグループの2015年12月18日であり，最も遅かったのはCグループの2016年2月9日であった。

表1 遊動する船団と家族名

グループ	家族数	家族名（略名）
A	2	UMS, UEK
B	6	DPK, DEY, MEN, MNS, MGK, UMM
C	6	SKM, MHTM, MDD, MLL, MKD, MKS
D	7	DSB, MT, MPN, DLN, MSH, MHA
E	10	UA, DTN, MA-1, MA-2, MMD, MAP, UTH, DMA, HHS, DSM
F	9	GD, PL, MTK, MKK, SPDM, SPWL, MKT, SMD, JH
G	10	DTK, MAT, SD, HMK, HAM, MN, MZAN, MEN, SAMK, DHS
H	10	MH, SBS, MKK, MKA, MAP, MT, MTTC, MHS, MAT, DJ
I	12	MAAM, MHHM, MT-1, MT2, MHH, MKB, MMK, MAM, MAP, MPW, MMH, DKK

これまでのサロンに関する情報では，乾季になると一斉に遊動に出るような印象を受けるが，実

際にはグループごとにばらばらであった。

この 72 家族のように、グループ間で出航日に 54 日もの間隔が空いており、必ずしも同一日に行動を起こしてはいない。理由は不明であるが、それぞれの家族の事情やグループ内での家族間の調整、天候、準備の都合などであろうし、乾季の半年間に複数回の短期の遊動を行っている家族もある。

また、遊動中でも不漁であれば短期で切り上げてしまうこともあるし、その反対の場合もあろう。但し、雨季は海が荒れることが多く、危険なので遊動を行うことはない。聞き取り調査で確認したところでは、高齢者や病人の中には遊動に参加していない場合もあり、サロンの人々が全員遊動に出ている訳ではなかった。また、雨季には、停留地のタヨータダンジー島の近海において、単独で日帰りの漁をしていることが多いが、このような活動は本研究では遊動として扱っていない。本研究でいう遊動とは、長期にわたって定住地を離れて集団で航海している場合を指している。

6.2. 遊動の日数

遊動日数については、遊動開始日（出航日）から遊動終了日（帰航日）までに要した合計遊動日数を計数している。また、この時の推定最短遊動距離（km）は聞き取り調査結果から得た情報をもとにして、海図上でグループごとの航路を辿り、その位置が海図上で確定できた最近接 2 点間の最短距離を計測し、その総計を計算した。

しかし、彼らの遊動は実際には、漁をしながらの移動であるから直線的な移動ではなく不規則な

経路を取っているはずであって、これを正確には記録できないので便宜的に最短距離を仮定している。

将来的には（可能であれば）GPS^{注29}を用いたより正確な計測が望ましい。日平均遊動距離は推定最短遊動距離を合計遊動日数で除した値として求めている。また、漁を終了した後に帰航に要する日数は数日である。往路は 2 か月かかる航海も、帰航のための復路は一直線に航路を取っているため、大概是 1~3 日しかかからない（表 2）。

遊動のペースは実際には緩急差が非常に大きく、しばしば停止して漁を行っており、数日同じ海域にいる場合もある。表 2 の推定値では非常にゆっくりとしたペースであるが、実際には漁をしながらの往路の移動ペースは、さらにゆっくりしているはずであろう。

タヨータダンジー島のドンパレーオ海岸を出航した後に、船団は整然とした編成のもとにアンダマン海を進んでいく。船は家族ごとに母船とも云える *Kaban* の他に多数の個人用、或いは浅瀬用の丸木舟 *Chapan* 数隻を伴っている。かつては、彼らは風を巧みに使って航行し、風の時はオールを漕いで航海した。しかし、近年では船外機のエンジンを導入したので、移動速度を上げることができるようになっている。但し、船外機が取り付けられているのは、母船とも言うべき *Kaban* だけなので、母船が他の多数の船を曳航する形になる。

遊動には家族が揃って参加し、女子も積極的に操船に協力する。子どもたちも *Chapan* の操船に熟達しており、不安定な丸木船を上手に操っている。

表 2. 船団別の遊動日、日数、距離

船団	家族数	遊動開始日 (出航日)	漁労最終日	遊動終了日 (帰航日)	合計 遊動日数	漁労日数 往路	推定最短 遊動距離 (km)	日平均 遊動距離 (km)
A	2	2016 年 1 月 9 日	2 月 28 日	3 月 1 日	53	51	550	10.4
B	6	2015 年 12 月 18 日	翌年 4 月 2 日	4 月 5 日	110	107	1,323	12.0
C	6	2016 年 2 月 9 日	3 月 24 日	3 月 25 日	46	45	525	11.4
D	7	2016 年 1 月 17 日	4 月 8 日	4 月 10 日	85	83	837	9.8
E	10	2016 年 1 月 2 日	4 月 4 日	4 月 11 日	101	94	818	8.1
F	9	2016 年 1 月 9 日	2 月 27 日	2 月 28 日	51	50	577	11.3
G	10	2016 年 1 月 4 日	4 月 17 日	4 月 18 日	106	105	974	9.2
H	10	2016 年 1 月 10 日	4 月 9 日	4 月 10 日	92	91	758	8.2
I	12	2015 年 12 月 18 日	翌年 4 月 2 日	4 月 5 日	110	107	1,323	12.0

7. 船団 (B グループと I グループ) の遊動追跡

調査対象とした 9 つの船団全ての遊動航路については略述するが、この中から遊動日数、推定最短遊動距離が最大の **B グループ** と **I グループ** についての遊動航路、位置、停泊した島嶼名を以下に記述する。この 2 つのグループは全く同一の航路を同期して遊動していた (図 2)。なお、本研究では航路の確認には Google Earth Pro™ (Google LLC, Version 7.3.6.10201) 注 30 を使用した[11]。現地で得られた島名と調査結果を衛星画像上に重ね合わせることで、位置 (緯度、経度) を特定している。

また、図 2 の全航路を航海日程に沿って 10 分割して、図 2-1～図 2-10 として掲載した。島名の[ID:45] [ID:55]などは文献[1]にて示した島名一覧表の島嶼番号を意味する (本論付録としても提示した)。

●2015 年 12 月 18 日の出航から年末までの遊動

(図 2-1 参照) **B グループ** は 6 家族 (DPK, DEY, MEN, MNS, MGK, UMM,) の船団であり、**I グループ** は 12 家族 (MAAM, MHHM, MT-1, MT-2, MHH, MKB, MMK, MAM, MAP, MPW, MMH, DKK) であるから、計 18 家族がそれぞれの *Kaban* を中心にし、多数の *chapan* を曳航している。

出航は 2015 年 12 月 18 日。出航地はタョータダンジー島 [ID:45] (*thayaw thadan gyi kyun*) のドンパレーオ (*Don pule o*) 地区である (北緯 12 度 20 分, 東経 98 度 01 分)。出航に際しては出航地となる小さなドンパレーオの海岸は大賑わいである。さながら祭典のように多数の人々が海岸に蟄集し、積み込む家財や日用品の荷を担ぎ込む人々でごった返している。船団は先ずタョータダンジー島の西方にあるパーパン島 [ID:54] (*par pann kyun*) 方面に向かっている。同島は (北緯 12 度 17 分, 東経 97 度 52 分) に位置しており、旧英領時代は *Smart Island* と呼ばれていた。ところがビルマ独立後 70 年が経過した現在、現地ではその名称を使用しないにも関わらず、国際的に広く使用されている *Cornes* 海図注 31 では、未だに *Smart Island* が印刷され続けている。更に紛らわしいことに、この島の東方には同名の *Smart Island* [ID:55] (北緯 12 度 17 分, 東経 97 度 57 分) がもう 1 つ存在している。現地語 (ビルマ語) ではこの島の方はテネタン島 [ID:55] *the net tann kyun* : 「黒砂島」の意、と使い分けられている (本研究では 1 島 1 名称に従うとともに、英領時代の名称は使用せず、現地語で

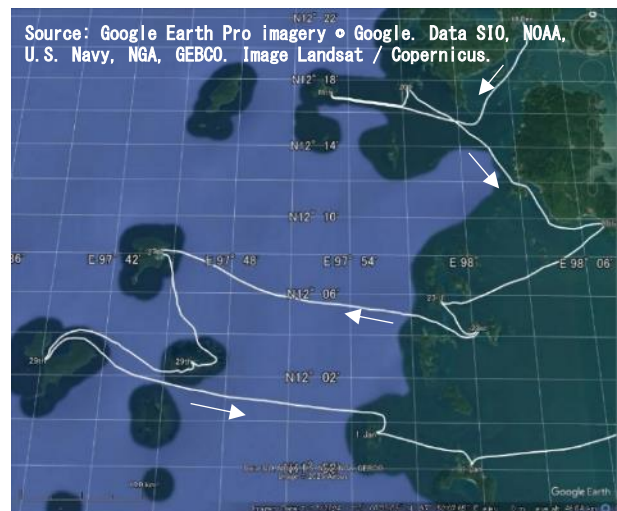


図 2-1. B と I グループの 2015 年 12 月 18 日～2016 年 1 月 1 日頃の航路 (後出の図 2 より抜粋し拡大している)

統一すべきという立場をとっている)。

船団は遊動の初日から漁撈をしながらの航海である。出航から 2 日後の 12 月 20 日にも引き続いて同島付近で漁をしながら、かなりゆっくりしたペースで移動して、その東方のドン島 [ID:70] (*don kyun*) のドンニャウンマイ (*don nyaung maing*) の沖合の海域 (北緯 12 度 13 分, 東経 98 度 05 分) に向かっている。この海域は出航地からは、1 日で往復できる範囲であり、雨季においても天候を見計らいながら出漁できる近海の漁場であるから、サロンは季節によって、どこにどんな獲物がいるか精通している。

12 月 23 日 (図 2-1) にその南東のタウンチュンポン島 [ID:90] (*taung kyun pon kyun* : 「沢山の島がある島」の意, 北緯 12 度 05 分, 東経 97 度 58 分) 方面に向かっている。同島は、旧英領時代は *Street Island* と言い、現在も *Cornes* 海図では同名を使っているが、ビルマ語ではタウンチュンポン島という名称が使われている。23 日には近くのナッタミーエートウィン島 [ID:96] (*nat tha mii yay twin kyun* : 「天女の井戸の島」の意, 北緯 12 度 04 分, 東経 98 度 00 分) の近海に来ている。この島はかつて *Drakes Island* と呼んでいたが 1948 年のビルマ独立以来、ビルマ語の呼称が使われており、*Cornes* 海図でも既に英名は使用せず、現地語を使用している。船団は 12 月 27 日 (図 2-1) までは西方に向けて漁をしながら移動し、さらに西方の旧英領時代の *Bailey Island*, つまりビルマ語でジャーボツ島 [ID:92] *jar bot kyun* (ダーウェイ方言), 北

* Ohsawa, Seiji et al.
Sorting out the changes
and confusion of Meik
Islands names in
Myanmar, Int. J. Hum.
Cult. Stud. 2023, 33,
pp.22-41.

到着 月日 (d mm)	島名*	ID*
(出航) 18 Dec	thayaw thatan gyi kyun	45
1	par pann kyun	54
20 Dec	the net tann kyun	55
1	don da hunn	70
23 Dec	taung kyun pon kyun	90
1	nat tha mii yay twin kyun	96
27 Dec	jar bot kyun	92
29 Dec	kye leit kyun	94
1	su lar kha mauk kyun	93
1	kye leit kyun	94
1 Jan	mii nat kyun	105
1	mii seinn kyun	108
3 Jan	thar myar a mi kyun	106
8 Jan	sa lon kyun	107
11 Jan	wet phyu taung kyun	112
17 Jan	mou ma linn kyun	117
19 Jan	we kyun ywar	123
20 Jan	pyinn sa bu nge kyun	125
23 Jan	a shay su lar kyun	116
29 Jan	kunn thii kyun	124
1 Feb	the phyu kyun	129
3 Feb	pyinn sa bu nge kyun	125
6 Feb	yay ayenhet thaik kyun	141
9 Feb	a le man kyun	170
12 Feb	pu le kyun	169
12 Feb	pu le kyun	173
15 Feb	sin kyun	186
22 Feb	lan pi kyun	194
26 Feb	kyun me gyii kyun	192
1	bo cho kyun	213
1 Mar	kyun than lonn	210
3 Mar	taung na winn	226
5 Mar	myauk na winn kyun	216
8 Mar	jar lann kyun	227
11 Mar	than dar net kyun	221
1	nyaun wii kyun	224
18 Mar	kyun pyar gyii	236
21 Mar	shwe kyun gyii	240
24 Mar	zar det nge kyun	258
27 Mar	za det kyii kyun	266
30 Mar	than nge kyun	277
2 Apr	saung kaut kyun	281
1	(帰還)	
(帰着) 5 Apr	thayaw thatan gyi kyun	45

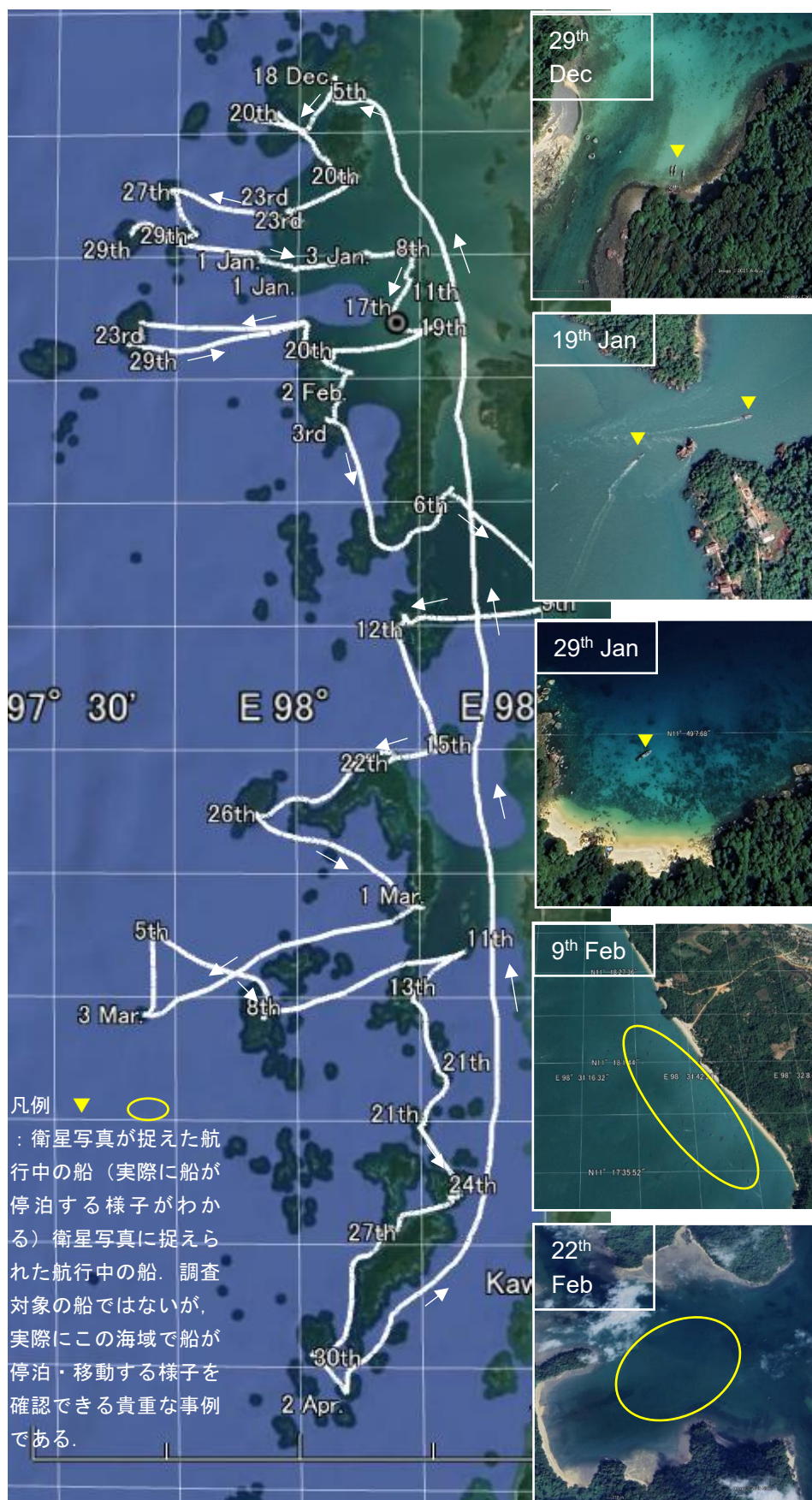


図2. BとIグループの航路（白実線）

Source : Google Earth Pro imagery © Google. Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO. Image Landsat / Copernicus.

緯 12 度 07 分, 東経 97 度 43 分に向かっている。さらに, *kye leit kyun* [ID:94] 北緯 12 度 02 分, 東経 97 度 46 分を経て, 南方にある, 旧英領時代は Sargent Island と言っていたビルマ語のスーカーマーク島 [ID:93] *su lar kha mauk kyun*: 「大きい帽子の島」の意, 北緯 12 度 02 分, 東経 97 度 40 分付近を経由して (この島嶼名も Cornes 海図では相変わらず英領時代の英語名を使用している), 再び *kye leit kyun* に戻っている。

●B グループと I グループの船団は, 南東のミーナー島 *mii nat kyun* [ID:105]: 「火の精霊の島」の意, 北緯 11 度 59 分, 経 97 度 55 分へ向かっている。この島はかつて旧英領時代には Observation Island と標記されていた島である。新年をこの島で迎えている。

●新年から 1 月末までの遊動

新年を英領時代は Courts Island と呼んだミーセイン島 [ID:108] (*mii seinn kyun*: 「緑の光の島」の意, 北緯 11 度 57 分, 東経 97 度 59 分) で迎えた船団は 1 月 3 日 (図 2-2) には, 東方にあるターマミャアミー島 [ID:106] *thar myar a mi kyun*: 「沢山の息子をもつ母の島」の意, 北緯 12 度 00 分, 東経 98 度 08 分, 付近に移動している。この島は, 英領時代は Christmas Island と言っていた。

1 月 8 日 (図 2-2) には更に東方に移動し, サロン島 [ID:107] *sa lon kyun*: 北緯 12 度 00 分, 東経 98 度 14 分の付近で漁をしている。ここはかつて Pickwick group の島と呼ばれていたところであるが, 現在は Commes 海図では *Siza thitku kyunzu* と表示されている群島であって小島が多数点在して

いる。これらの小島の個々の名称は不明である (現在も個別の島嶼名はないかもしれない)。

船団はこの付近ではゆっくりとしたペースで漁撈しつつ, 島々を縫うように東方に向けて遊動している。

1 月 11 日 (図 2-2) はウェッピーータウン島 [ID:112] *wet phyu taung kyun*: 「南の白豚島」の意, 北緯 11 度 57 分, 東経 98 度 14 分周辺に移動している。森に覆われたこの島は, かつては Parker Island と呼ばれていた。

出航以来, ちょうど 1 か月を経過した 1 月 17 日 (図 2-2) は, モーマリン島 [ID:117] *mou ma linn kyun*: 「夜明け前の島」の意, 北緯 11 度 51 分, 東経 98 度 12 分付近である。この島は, かつて旧英領時代は Rosy Island と呼ばれていた。面積は小さいが集落が点在し, 経済活動も見られるので, 飲料水や氷, 米などを調達することができ, 航海者たちはそれぞれに物資を補給している。

1 月 19 日 (図 2-2) は, 船団はウェチュンヤー島 [ID:123] *we kyun ywar*: 「左の島の村」の意, 北緯 11 度 51 分, 東経 98 度 17 分周辺に行く。旧英領時代は Jack Island, ビルマ独立後は We Island と呼んでいた付近において漁撈を行っている。

20 日 (図 2-2) には西方のピンサブゲー島 [ID:125] *pyin sabu nge kyun*: サロン語と思われる名称, 北緯 11 度 48 分, 東経 98 度 03 分に移動している。この島には船着き場があり, 家屋も点在し, 船を帰航させることができる比較的賑やかな島である。かつては Thomson Island と言っていた。

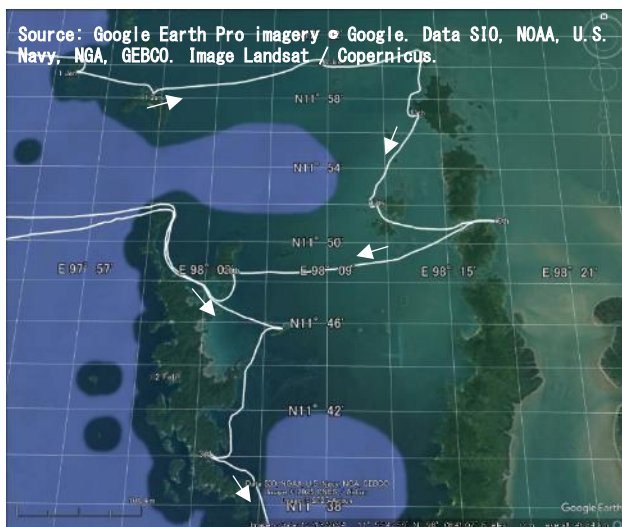


図 2-2. B と I グループの
2016 年 1 月 1 日～2 月 13 日頃の航路 (図 2 より抜粋)

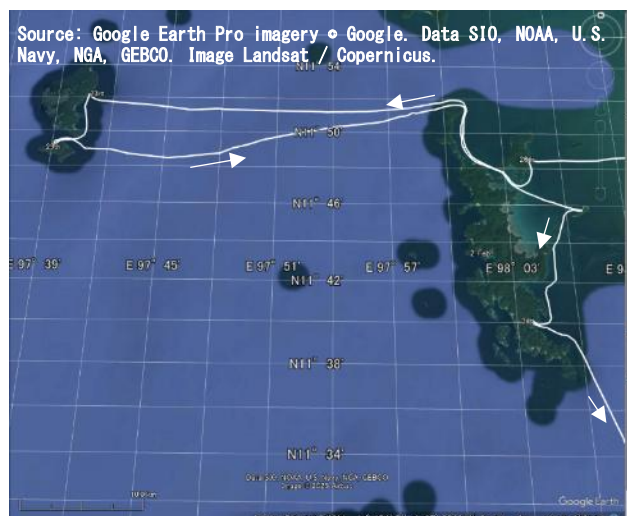


図 2-3. B と I グループの
2016 年 1 月 20 日～2 月 3 日頃の航路 (図 2 より抜粋)

1月23日(図2-2)はアシェイスラー島[ID:116] *a shaysu lar kyun*「東の多い島」の意、北緯11度51分、東経97度39分、英領時代の Sir John Haves Island、ビルマ独立後 East Sular と言っていた島に向けて、かなりの距離を西方へ遊動している。この島の付近で、1月29日(図2-3)まで6日間にわたって漁撈を行っている。この海域は豊かな漁場のようなのである。1月29日には、クンティー島[ID:124] *kunn thii kyun* :「キンマの実の島」の意、北緯11度48分、東経97度39分、かつて旧英領時代の Fretcher Island の近海で漁をしている。

船団は、ここから再び東方へ向けて反転して、やや速度を上げて船を走らせている。

●2月1日から2月末までの遊動

2月1日(図2-2)に、同島の東岸に位置するテーピュー島[ID:129] *The phyu kyun* :「白い砂の島」の意、北緯11度45分、東経98度06分に到達しているが、この島は旧英領時代は South Passage Island と言っていた。この海域はサロンのほかビルマ人やカイン人などの漁船も時々行き交う海域である。

続いて、ピンサブ島[ID:125] (*pyinn sa bu nge kyun* : 旧英領時代は Bentinck Island と呼ばれていた、北緯11度48分、東経98度03分の南の岬 Bluff Point を通過しており、イエーアイエーゲータイク島[ID:141] *yay ayenhget thaik kyun* :「冷水島の巣の島」の意、北緯11度31分、東経98度18分へ向っている。この島は、英領時代は Hnghetthaik Taung と呼び、ビルマ独立後から前掲の名称が使われている。

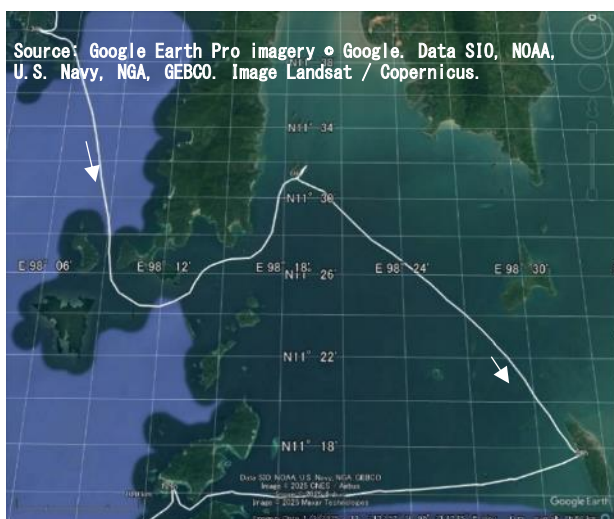


図2-4. BとIグループの
2016年2月3日～12日頃の航路(図2より抜粋)

その後、ドーム島(*Dome kyun* : 英領時代は Domel Island といい、その後 Pan daung Island と呼ばれていた)の南方海域で大きく迂回して、アレーマン島[ID:170] (*a le man kyun*)に2月9日(図2-4)に到着している。この小さな島(北緯11度17分、東経98度32分)は、かつて英領時代は Malcolm Island と云われ、森に覆われていた。今は集落が発達し、東方のほど近いマレー半島側の本土にはボーピン(*Bokpyin*)市があり、物資の流通も盛んで、商業活動も活発に行われている。船団はここで獲物との交換や日用品、氷、燃料、食品などの買い入れを行っている。

同日2月9日(図2-4)のうちに、船団は南東方向へ航海を続け、3日間かけて西に向けてゆっくり進み、真珠を養殖する真珠島プーレー島[ID:169] *Pule kyun* に向かっている。しかし同じ真珠島と名称がつく島[ID:173]がこの付近には2つ(北緯11度17分、東経98度14分と、北緯11度16分、東経98度12分)存在している。このうち前者は英領時代には Sir J. Malcolm Island といい、後者は Barbara Island と言っていた。前者は、ビルマ独立後は Par lei kyun といい、後者は Barani Island としている[1]。日本企業の真珠養殖場もこの付近にある。

更に、2月12日(図2-4)から15日(図2-6)までは、船団は真つすぐに南方へ向かう。

次のポイントはシン島[ID:186] *sin kyun* :「象島」の意、北緯11度01分、東経98度18分、といい、英領時代は High Island と呼んでいた島である。ここには2月15日に到着している。この海域には二

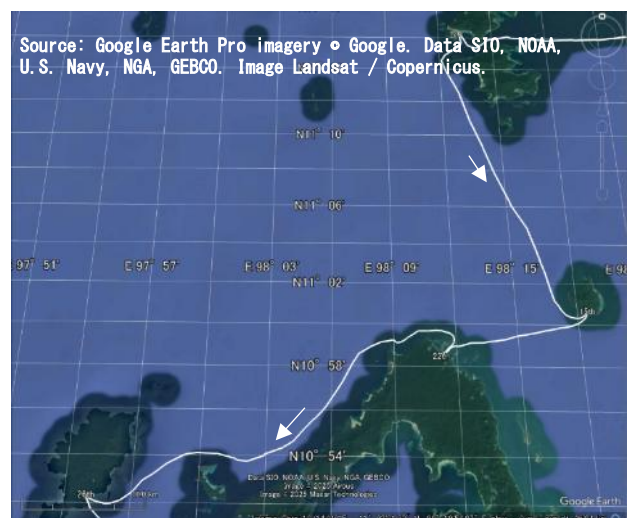


図2-5. BとIグループの2016年2月12日～15日
～22日～26日頃の航路(図2より抜粋)

タリクジラやツノシマクジラ, シロナガスクジラなども見られる。

続いて船団はこの海域で枢要な位置を占めるランピ島 [ID:194] *lan pi kyun* : 北緯 10 度 52 分, 東経 98 度 13 分方面に向かい, 2 月 22 日 (図 2-5) までゆっくりと漁撈を行っている。同島は, かつては Sullivan Island とか Kyun tann shey と呼ばれていた。現在 Commes 海図では Lampi Island と Kyun tann shey の 2 つの名称が併記されている。

この海域には多くの貴重な動植物が確認されており, ジンベエザメ, ジュゴン, クジラ類, タイヘイヨウアカボウモドキ, ヒモハクジラ, シャチ, イルカ, スナメリ, カワゴンドウなどがみられる。原生林にはサイチョウ, ウミワシ, アオサギ, ニシキヘビ, サル, イノシシ, ゾウなどの様々な動物が生息し, 昆虫の生育も多様である。なおこの島は ASEAN が指定している自然遺産であり, ミャンマー有数の国立公園でもある。ミエ諸島の中でも有数の大きな面積をもっており 187,050 平方 km に及ぶ。

船団はランピ島の北側を廻って 2 月 26 日 (図 2-5) にはチュンメイギュ島 [ID:192] *kyun me gyii kyun* 「大きな黒い島」の意, 北緯 10 度 53 分, 東経 97 度 55 分に至っている。英領時代の Clara Island である。

船団はその後ランピ島の南端の集落であるボーチャー島 [ID:213] *bo cho kyun* のマチョンガレー (*Ma kyoung ga let* : 北緯 10 度 40 分, 東経 98 度 15 分) に到着し, 休憩をとっている。ここは同島におけるサロンが停留地を設けている集落であり, 船

団は収穫した獲物を販売したり, 米, 飲料水, 調味料などと交換したり, ガソリンが不足している場合には購入することもある。サロンにとっては久しぶりに同族の友人に会える機でもあり, 彼等は休日を楽しむ。彼らの遊動中では, 最も重要な帰航地となっている。

●3 月 1 日から 3 月 31 までの遊動

3 月 1 日 (図 2-6), 船団は再び遊動を開始する。西方に向けて 5 日間の漁をしながらの遊動である (図 2-7)。次の目標は, チュンタンロン *kyun than lonn* [ID:210] 北緯 10 度 40 分, 東経 98° 10 分である。さらに, タウンナウィン島 [ID:226] *taung na winn* 「南の 9 分の 1 の島」の意, 北緯 10 度 27 分, 東経 97 度 39 分と *myauk na winn kyun* [ID:216] 北緯 10 度 38 分, 東経 97 度 41 分である。前者はかつての South twin Island あるいは Western Island と言っていた。

ここから船団は南東に方向を変えて 3 月 8 日 (図 2-8) で漁を続けながら, ジャラン島 [ID:227] *jar lann kyun*, 北緯 10 度 26 分, 東経 97 度 54 分へ向けている。この島は英領時代の Loughbough Island である。

続いて, 3 月 11 日 (図 2-8) まで東方へ向けて遊動している。タンダネー島 [ID:221] (*than dar net kyun* 「黒い珊瑚の島」の意, 北緯 10 度 35 分, 東経 98 度 20 分から近くのニャンウィー島 [ID:224] *nyaun wii kyun*, 北緯 10 度 30 分, 東経 98 度 12 分付近に近づく。前者は *Pulo Tuhan* とか *Boyul Island* などと英領時代は呼ばれていたが, 独立後に上記のように呼ばれるようになった。後者は英領時代に

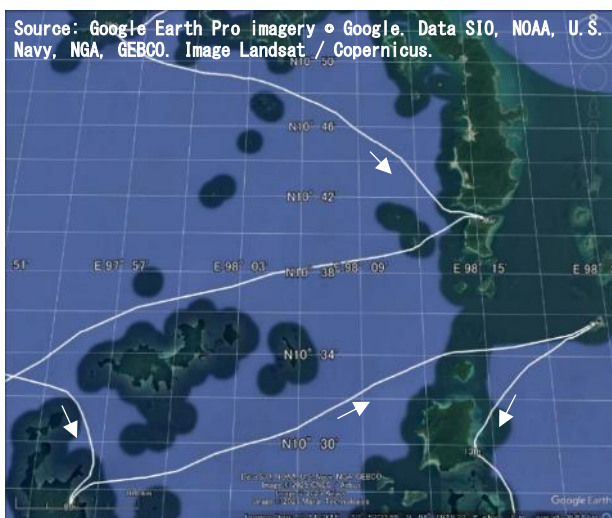


図 2-6. B と I グループの 2016 年 2 月 26 日～3 月 1 日, 8 日, 13 日頃の航路 (図 2 より抜粋)

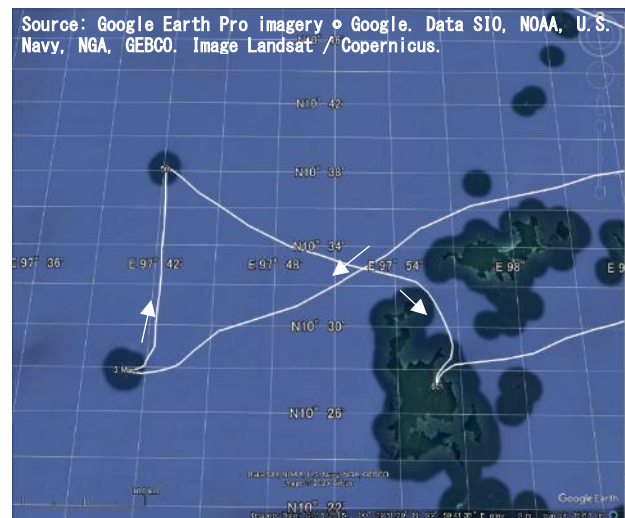


図 2-7. B と I グループの 2016 年 3 月 3 日～8 日頃の航路 (図 2 より抜粋)

は Pulobada または Sir William Island とよび、独立後、現在の呼称になった。

この海域では 7 日間の漁を続けていた。更に船団は南に進み、3 月 18 日 (図 2-8) にはナーナッティ島 *naa nat thii kyun* 「パイナップル島」の意、北緯 10 度 21 分、東経 98 度 03 分を経てチュンピヤーギー島 [ID:236] *kyun pyar gyii* : 「広大な島」の意、北緯 10 度 20 分、東経 98 度 17 分に到達している。ナーナッティ島は英領時代は Quoin Island といっていたが、独立後は現在の名称が使われている。ところがパイナップル島という言い方は、英領時代には後者の *Kyun pyar gyii* にも使われており英語で Pine Tree Island といっていたのでややこしく、海図を参照しながらでも混乱する。しかも各国の海図、観光用の地図など、版元によって表記が統一されておらず、この状態は現在も改善されていない。更に船団は、*shwe kyun gyii* [ID:240] を経て、南方に遊動して、3 月 24 日 (図 2-9) にはかつて Hastings Island と呼ばれ、現在はザデギー島 [ID:258] *zar det nge kyun* : 北緯 10 度 06 分、東経 98 度 17 分の付近を通過している。

3 月 27 日 (図 2-10) はミエ諸島南部で最大のザデギー島 [ID:266] *za det kyii kyun* : 大きな島、北緯 9 度 57 分、東経 98 度 11 分、すなわち英領時代のミエ諸島の代表的な島嶼である St. Mathew's Island へ向っている。ここでもそれぞれの家族は食料や日用品を調達する。

3 月 30 日 (図 2-10) には、ここから同島を大きく東方に迂回して南のタンゲー島 [ID:277] *than nge kyun* : 「小さい鉄の島」の意、北緯 9 度 46 分、

東経 98 度 01 分から、さらに南東海上のサウンカウト島 [ID:281] *saung kaut kyun* : 「竖琴の島」の意、北緯 9 度 42 分、東経 98 度 06 分に至る。ミエ諸島でも最南部のこの辺りの島嶼は、旧英領時代は殆どが無名であったが、ビルマ独立後に、ビルマ語で島嶼名が与えられている。



図 2-9. B と I グループの
2016 年 3 月 21 日～27 日頃の航路 (図 2 より抜粋)

●4 月初旬、漁撈を終了して帰航

2016 年 4 月 2 日 (図 2-10) で、この船団の漁撈は終了している。彼らは少しも休憩をとらず、ここから出航地のタヨータダンギー島のドンパレーオへ向けて最短距離を、一気に北上している。この帰航への船足は迅速で、4 月 5 日 (図 2-1) までの 4 日目でドンパレーオの海岸まで直行している。

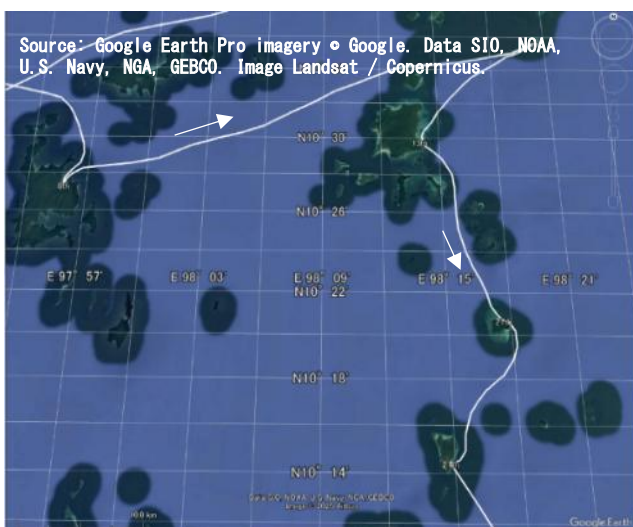


図 2-8. B と I グループの
2016 年 3 月 8 日～3 月 21 日頃の航路 (図 2 より抜粋)

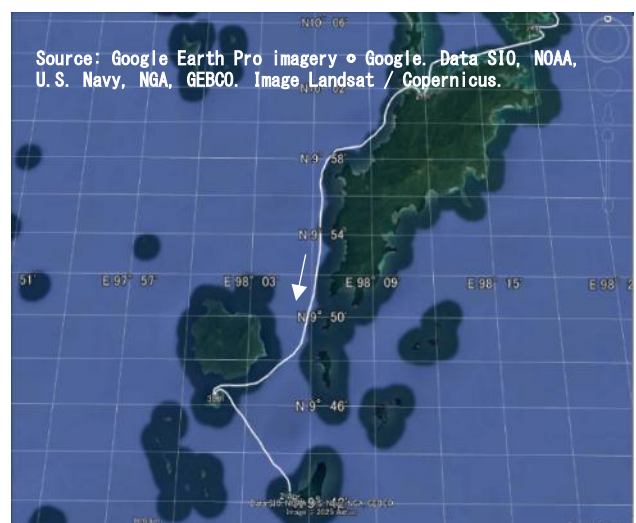


図 2-10. B と I グループの
2016 年 3 月 27 日～4 月 2 日頃の航路 (図 2 より抜粋)

7.1. 遊動航路と帰航日

それぞれ 9 つのグループがタヨタダンジー島を出航した日には、2 か月近くの差があった。遊動を終えて戻ってきたのは、最も早いグループが 2 月 28 日で、最も遅いのは 4 月 18 日であった。

各グループの帰航日は表 2 (前 p.8) のようである。出航日と同じく帰航日にも 51 日の違いがある。

こうして遊動に出ている船団は 4 月 18 日には全家族が帰航して、停留地のドンパレーオはにわかに賑わいを取り戻している。

サロンの遊動は毎年 1 年のうちで、乾季にあたる 11 月から 4 月にかけて行われる。殆どこの時期は降雨がなく、モンスーンに遭遇する危険も少なく、遊動には最も安全な季節である。しかし、その年の天候次第では、5 月まで延長して行われることもあるらしい。また停留地となっているタヨタダンジー島の周辺では雨季であっても天候に応じて鮎漁を行うほか、同島では動物の狩や植物の採集、海浜でのウニやナマコ、貝の採集が行なわれている。

別途行った調査によると、男子 72 名中 19 名 (4 分の 1) が年間を通じてタヨタダンジー島の周辺で鮎漁を行っていた。

7.2. 遊動航路と遊動距離の推定

9 船団 72 家族の取ったルートを一家族ごとに聞き取り、それをグループごとにまとめて図 2 から図 9 に整理した。この遊動航路図を手掛かりにして、船団ごとに乾季に行われた遊動 (航海) ごとの遊動距離を推定してみよう。ここでの推定遊動距離は、明確に記録できる点から点への最短距離を推計したものである。実際には航路に沿って、その近くを遊動している訳であるが、その日の獲物の動きに対応して、移動経路は不規則にならざるをえない。実際には、漁撈活動はこの遊動図に沿いながらも、より幅広い範囲で行われていると考えられる。したがって以下の推計は最短距離であって、実際にはこの推計よりは 20~30% 程度は長距離になると思われる。

グループ別の航海の概要を以下に要約する。

A グループ (図 3)

この調査の対象となったサロンの船団の出航地と帰航地は全てのグループがタヨタダンジー島であり、地図上では遊動ルートの北端に位置している。A グループの行動範囲は、図 3 のように出航とともに南行して、途中で東方のアレーマン島 [ID:170] *a le man kyun* (2 月 8 日) に立ち寄り、更にランピ島 [ID:213] *bo cho kyun* のマチョンガレーまで南下し、ここからミエイ諸島を東経 98 度線の西側を北上している。このグループの航海は全体的には比較的コンパクトであり、この期の漁を行うために遊動に要した日数は 53 日間で往路の行程は最短距離で推計すると 550km である。復路はこのグループは僅か 2 日間しかかけていない。

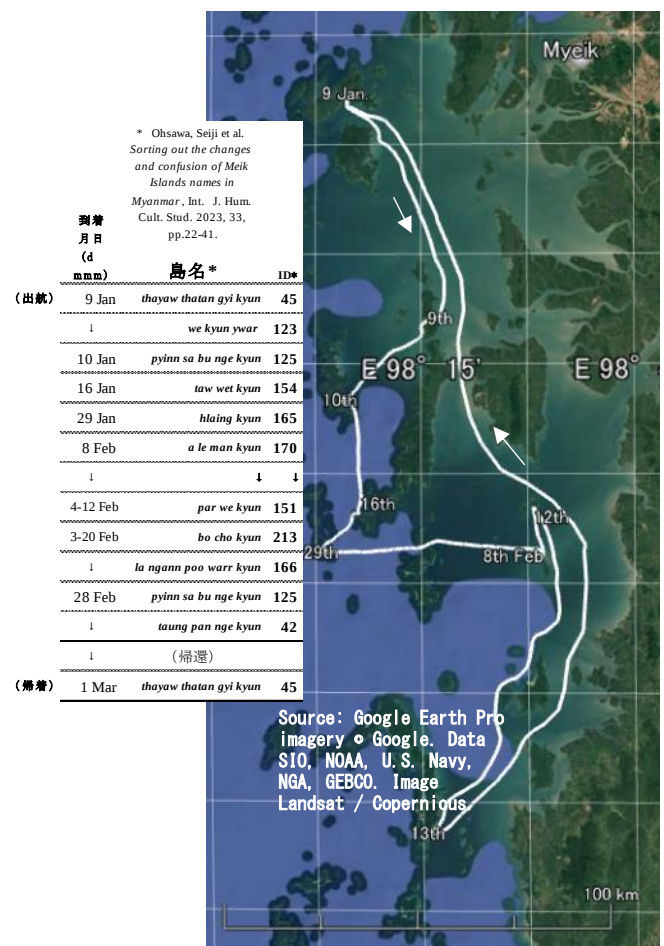


図 3. A グループの航路

B グループ (図2)

出航地はこの船団が辿ったルート of の最北端に位置する。B グループの船団は東経 98 度線に沿って北緯 12 度 25 分から北緯 9 度 40 分までの範囲を、東西に振り子のように行き来しながら南行している。B グループのコースはミエ諸島のほぼ全域を丹念にパトロールするように軌跡を描いている。

途中で立ち寄っている島々は、いずれも重要な物々交換や水の補給、生活必需品(ガソリン、氷、米など)の調達、魚の販売などを行える地点である。これらの重要ポイントを他のグループが行った遊動のルートと重ね合わせてゆくと、サロンの人々にとっての遊動中の実質的な生活圏が見えてくる。

往路はミャンマー領のミエ諸島の最南端まで到達しており、この往路の推定航行距離は 1,323km、復路は 3 日間で最南端から出航地 [ID:45] *thayaw thatan gyi kyun* ドンパレーオ迄を移動している。復路は最短距離を通過したと仮定して 418 km である。復路は一日あたりで 139km の遊動であるからほぼノンストップである。これは彼らの船団の編成を考えるとときに数多くの丸木舟を *Kaban* などのより大きめの船で曳航しながら、かなりの速度で帰航しているのであって、エンジンを使わなかった時代には大変な重労働であったし、複雑に変化する風を読みながらの高度な帆走技術を要したのであった。往路は漁撈が主であるので緩慢な遊動であるが、復路は対照的に迅速である。

以下続けて各グループの推定航路の概略と航行距離を示す。

C グループ (図4)

このグループはミエ諸島の中間の北緯 11 度付近まで南下して、そこから引き返してくる航路をとっているが全グループの中では最も短距離のコースである。途中、北緯 11 度 30 分あたりに停止して 2 月 11 日からほぼ 1 か月間この海域で集中して潜水漁を行っている。このグループの最大の漁場がここである。これ以降は 10 日間をかけてゆっくりと漁をしながらの航海を行い、北緯 10 度 50 分の海域から東経 98 度線の西側を北上している。航路から推定された最短遊動距離は 525km である。

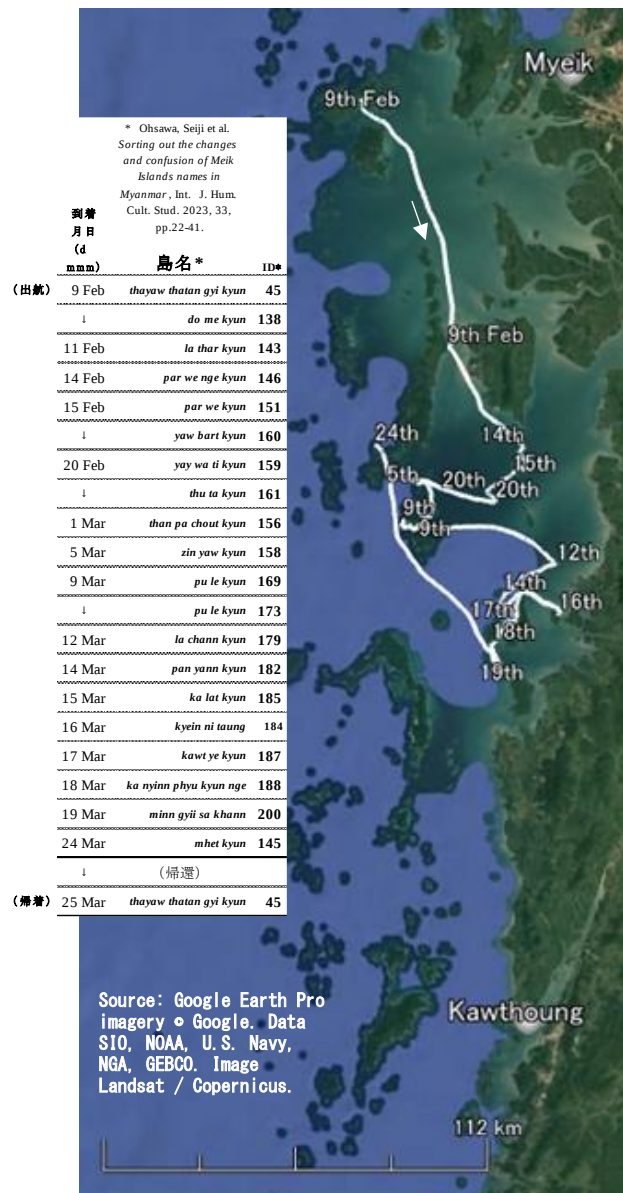


図4. C グループの航路 (往路のみ)

D グループ (図 5) このグループはミエ諸島の南方、北緯 10 度のザデジー島 [ID:266] *za det kyii kyun* まで遊動しているが、途中ではスラーカンマーク島 [ID:93] *su lar kha mauk kyun*, パンダウン島 [ID:138] *do me kyun*, アレーマン島 [ID:170] *a le man kyun*, ランピ島 [ID:213] *bo cho kyun*, ザデジー島を遊動している。推定最短遊動距離は 837km となる。このグループは遊動の途中で 2 群に分かれたり、時には 3 群になったりして個別の家族として航路をとっている。しかも帰航日も 2 群に分かれて数日間の差があり、何かの事情が起きた可能性もある。図 5 には遅れて帰航したグループの航路と日程がしめされているが、航路自体には大差はみられない。今季の 9 グループ全体の航海で唯一こうした分岐した航路が見られたグループであった。



図 5. D グループの航路

E グループ (図 6) このグループは往路は、ミエ諸島の南方、北緯 9 度 50 分のタン島 [ID:277] *than nge kyun* まで東経 98 度線の東方を南北にほぼ真っすぐに遊動している。ピンサブ島 [ID:125] *pyinn sa bu nge kyun* 近海からアレーマン島までは半月を掛けて非常にゆっくりと潜水漁をしながらの航海である。また、ランピ島周辺でも時間をかけてゆっくりと余裕をもった漁をしている。途中の帰航地はパンダウン島、アレーマン島、ランピ島のマチョンガレー、ザデジー島であり、推定最短遊動距離は 818 km となる。

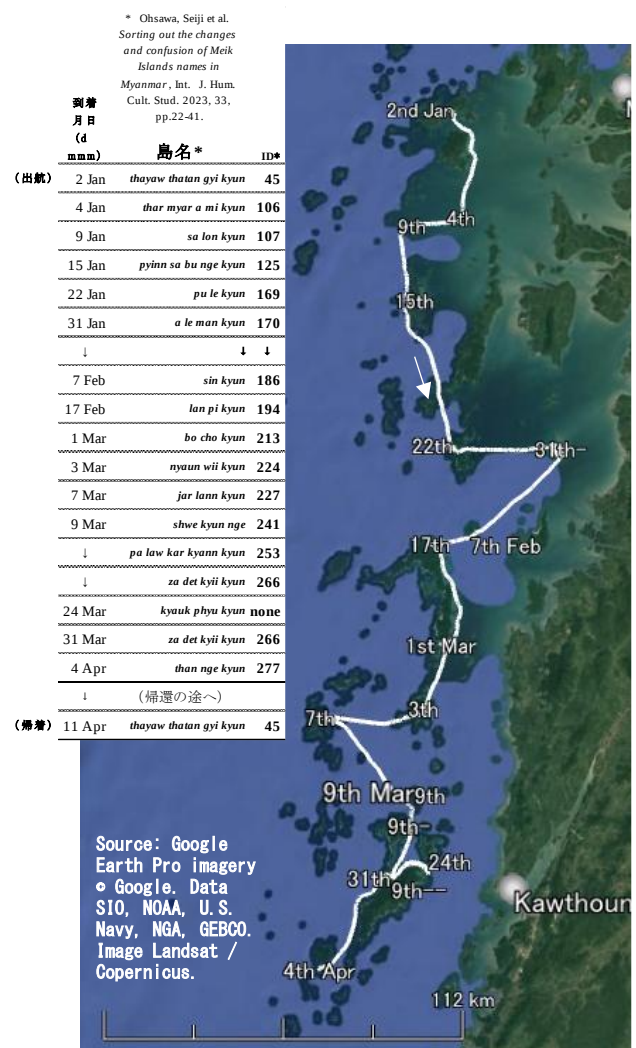


図 6. E グループの航路 (往路のみ)

F グループ (図 7) このグループの往路は、タョータダンジー島のドンパレーオ [ID:45] から南に遊動をはじめて、ピンサブ島 [ID:125] 更にランピ島の東の海域を通過してゆき、北緯 10 度 40 分のボーチョー島 [ID:213] の中間から帰航航路を取っている。復路は東西に広がらず、東経 98 度 15 分付近を南北に真つすぐ移動している。推定最短遊動距離は 577km である。このグループはピンサブ島で半月間にわたり潜水漁をしてからそれをアレーマン島で販売し、更にランピ島南部で潜水漁をしてマチョンガレーの集落に滞在してから、帰航に向けて漁をし、帰路では東経 98 度 02 分、北緯 11 度 23 分のタウエ島に立ち寄って魚を販売してから帰路についている。

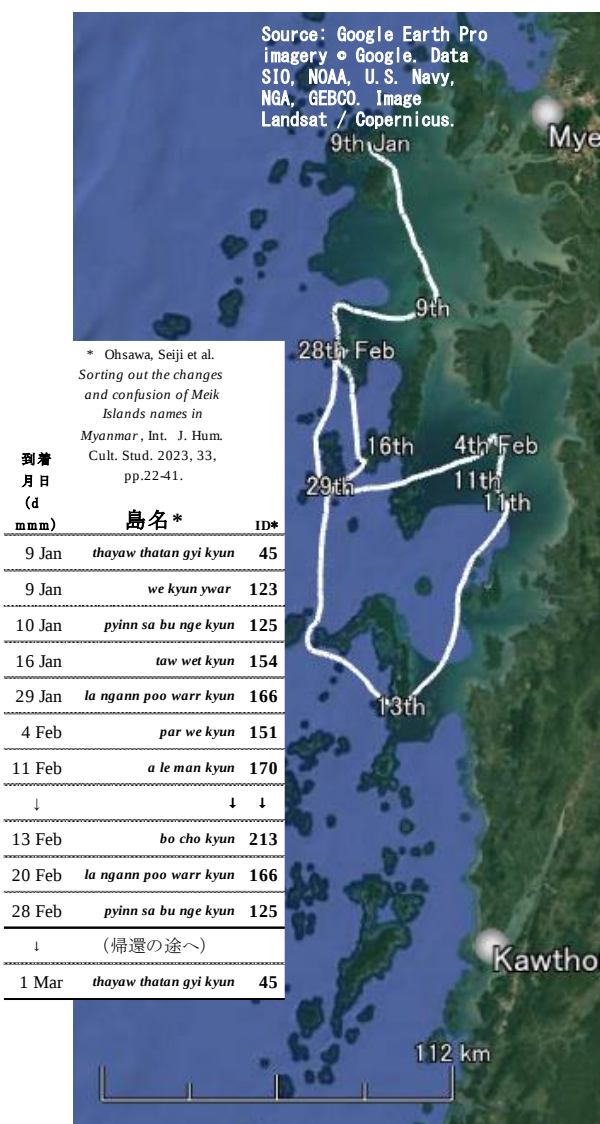


図 7. F グループの航路 (往路のみ)

G グループ (図 8) 全てのグループのうち最も広範囲に遊動しているグループである。この期の遊動では唯一ドンパレーオ [ID:45] から北へ向っており、マレー半島近く、北緯 13 度のタニンダーリ地方域の都市パタウ (Pataw) 付近まで航路を伸ばしている。マリ島付近のクンティー島 [ID:11] kunn thii kyun (東経 98 度 13 分、北緯 12 度 49 分) で進路を変えて U ターンしているが、北緯 11 度 45 分付近で東に進路を取り、ピンサブ島から南東に向かう。ここからランピ島の北側を通過して北緯 10 度 20 分付近で更に東へ向かっている。東経 98 度 12 分、北緯 10 度 30 分のニャウンウイ島で漁撈を終了して、そこからドンパレーオに向けて一路北方に復路をとり、帰航している。このグループの航路は 974km に及んでいる。



図 8. G グループの航路 (往路のみ)

H グループ (図 9) このグループの往路は、タヨータダンジー島のドンパレーオから、南に遊動をはじめ、ピンサブ島から東に向かい、ランピ島の西の海域を通過してゆき、北緯 10 度 30 分から東方に向かい、東経 98 度 12 分付近のニャンウィー島で南方に針路を変えて、北緯 10 度 3 分付近のザデジー島北部の海域での漁猟を最後にして、帰航航路を取っている。帰航はザデジー島の東方海域に出て一直線に北方のアレーマン島を目指し、小休止をしてから北西に針路を向けてドンパレーオ集落に帰航している。推定最短遊動距離は 758km である。

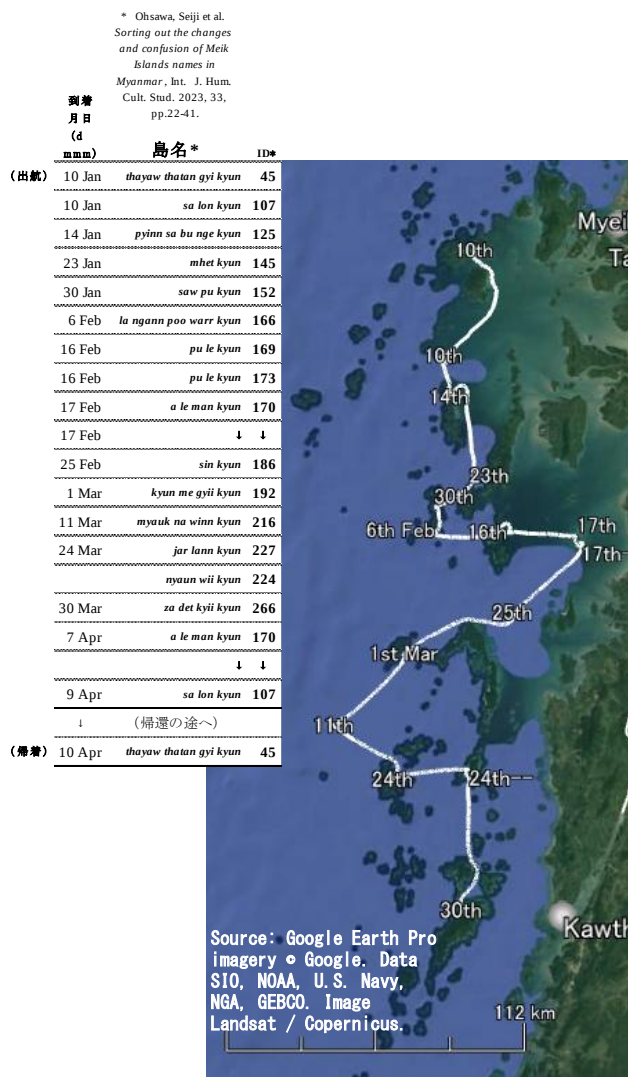


図 9. H グループの航路 (往路)

I グループ (図 2) B グループと同じ航路を辿っており、出航日もまた帰航日も同じである。推定最短遊動距離は 1,323km である。

以上のように 72 家族、9 グループの遊動における航路と出航地、帰航地、日程などの概要を示した。その結果、今回の調査によって、これまで想像の域を出なかったサロンの航路の概要がほぼ明らかになった。

これまでサロンの遊動は Sea Gypsy と形容されるように、アンダマン海を彷徨する自由度の高い、行き当たりばったりの遊動であろう、と想像されてきた。しかし、今回の調査結果からは、72 家族は 9 グループの船団をあらかじめ組織していること、グループごとに集団として緩やかであっても計画的、組織的に遊動をしていた。

彼らは行き当たりばったりの放浪をしているのではなく、風まかせの漂海民でもないことが明白である。サロンはリーダーを中心にして、秩序だった集団的な遊動をしているのである。

また、B グループと I グループの 2 グループはまったく同一の航路を行動していた。彼ら自身は別のグループとして認識しているようであるが、この 2 つのグループは、18 家族が 1 つの集団で遊動しているようにも見えたであろう。これは 2 つの親族集団が、漁撈上の条件がたまたま軌を一にした航路をとらせたものであるかもしれない。

従来の報告では、停留地の近海で単独で行われている漁撈がしばしば取り上げられてきたが、それは調査の対象になりやすかったからであろう。今回の調査で明らかになったのは、本格的な漁は集団で行われていたのである。これは陸上の狩猟採集民でも大掛かりな狩猟は個人ではなく集団で行われており、小規模の簡単な狩猟は個人で行われていることとよく似ているといえよう。

7.3. 遊動の期間、日数について

9 グループの 1 回の遊動において、推定される遊動距離は最長で 1,323km、最短 525km であり、遊動日数は往路で最長 107 日間、最短は 45 日である。推定される各グループの合計遊動日数、推定最短遊動距離、日平均遊動距離は表 2 のようである。但し、これらの数値は調査結果から判明した遊動地点間の距離をもとにして推定されたものであるから、実際にはこの距離よりは長いと考える

べきであろう。この結果から、一日あたりの平均遊動距離を求めると、8.1 km～12.0 km となり、非常に緩慢な航海である。しかし実際には、漁撈をしているのであって、その航路はこれよりは長い距離を遊動しているはずであるから一日あたりの平均遊動距離は若干長くなろう。

この遊動は、決して体力を使い果たするような無理な距離ではなく、ゆとりを感じさせる。幼児から老人に至るまでをかかえる大きな家族集団が、日常生活を営みながら長期に亘って一斉に移動しているのであるから、ゆっくりしたペースにならざるを得ないであろう。家族には時には体調を崩したり、分娩や看病もあろうし、また航海中に事故にあうことも無いわけではない。大漁となり何日間も同じ場所で漁をしていることもある。彼らが何よりも優先しているのは安全であって、その用心深い性質は遊動行動全般にいきわたっており、これが非常に緩慢な遊動行動をとらせているのである。

ともすると、探検記や紀行文学の作者やジャーナリストたちは、海洋における狩猟民の航海に勇猛果敢な冒険者の航海のような姿を想像したくなるかもしれないし、歴史上の人物や集団が荒波を越えて大航海を成し遂げた英雄譚を、遊動狩猟民の航海にもとめたくなるかもしれない。しかし実際のサロン船団の乗組員は、闘争的な青壮年男子からなる海賊や、屈強な戦闘員、あるいは大航海時代の冒険者とは、対極にある人々であって、温厚で平和な家族集団である。彼等は何よりも家族の安全を優先し、決して危険を伴う選択をしない。言わば「スローライフ」を海洋で送る人々なのである。実際、アングマン海上に見るサロンの家族は海洋での遊動生活を楽しんでいるようでもある。

7.4. 遊動中の停泊地点

サロンの遊動行動範囲を表 3 に示したが、遊動中の航路そして帰航地を知ることは学術的な意義だけではなく、彼らの生活改善に関係して重要な意味をもっている。

国は民族問題省が中心となって、彼らの生活を支援する政策を今世紀になっては始めている。ところが、遊動中の彼らの動態が把握できていないために、これらのサービスを届けるうえで問題をかかえてきた。そこでサロン 72 家族、9 グループの遊動中における航路を確認した。図 2 から図 9

表 3 船団の遊動範囲

船団	南北（北緯） 遊動範囲	東西（東経） 遊動範囲
A	10°40'N～12°20'N	97°51'E～98°32'E
B	9°46'N～12°20'N	97°40'E～98°32'E
C	10°50'N～12°20'N	98°01'E～98°35'E
D	10°03'N～12°20'N	97°41'E～98°32'E
E	9°46'N～12°20'N	97°57'E～98°32'E
F	10°41'N～12°20'N	97°57'E～98°32'E
G	10°25'N～13°01'N	97°42'E～98°32'E
H	10°02'N～12°20'N	97°42'E～98°32'E
I	9°43'N～12°20'N	97°41'E～98°32'E

の地図は航路（帰航路は省略している）を示したものであるが、とくに実用的な目的からすると帰航地あるいは停泊地点の位置、名称を把握することが必要となる。つまり各船団に共通する主要な島嶼・停泊地点を確認できれば、例えば人口調査を行ったり、国政選挙情報を提供し、投票を促したり、災害や行政サービス上の緊急情報を伝達したり、さらには、児童の就学や医療、福祉に関するサービスなどの拠点として利用することも可能となる。

本調査によれば 72 家族、9 船団は遊動の途次で、停泊もしくは立ち寄って、物々交換や獲物の販売あるいは日用品などの買い物を行った地点は、船団によってことなり、その地点は推定でも 20 か所以上にのぼる。これらには無人島も少なくないので、この中から特に主要な地点を選び、公的な機関の連絡事務所や連絡員などを設けるのが現実的である。このような観点から主要な島嶼・地点を選ぶと次のようになる（表 4、図 10）。

サロン船団の遊動基点となる主要な島嶼名・集落名と位置

- a タヨータダンジー島 (*thayaw thatan gyi kyun*) のドンパレーオ集落 (*Done pu le aw*)、北緯 12 度 21 分、東経 98 度 04 分：ここは雨季における停留地となっており、この集落を基点として遊動が行われる。マレー半島タ

表 4. サロン船団の遊動基点となる主要な島嶼名・集落名と位置

	島嶼名	集落名	北緯	東経	
a	タヨータダンジー島 【ID:45】 <i>thayaw thatan gyi kyun</i>	ドンパレーオ集落 (<i>Done pu le aw</i>)	12°20'N	98°01'E	雨季における停留地となっており、この集落を基点として遊動が行われていた。
b	ピンサブ島 【ID:125】 <i>pyinn sa bu nge kyun</i>		11°48'N	98°03'E	多くの船団が遊動の前半に立ち寄っている島嶼。
c	アレーマン島 【ID:170】 <i>a le man kyun</i>		11°17'N	98°32'E	いずれの船団も生活物資の調達、獲物の販売、交換のために立ち寄る重要拠点であった。
d	ランピ島 【ID:194】 <i>lan pi kyun</i>	マチョンガレー集落 【ID:99】 <i>ma kyoun ga let</i>	10°52'N	98°13'E	ミエイ諸島の中央部付近まで遊動を行う船団が必ず立ち寄る集落で、ドンパレーオに次ぐ重要拠点。
e	ザデジー島 【ID:266】 <i>za det kyii kyun</i>	北部海岸のチャットチャウン集落【ID:75】 <i>kyat chaung</i>	9°57'N	98°11'E	遊動をミエイ諸島の南部まで行う船団の場合に停泊する可能性が最も高い地区。

ニンダーリ地方域の拠点都市、ミエイ市から連絡がとれるが船では5時間かかる。

- b ***pyin sa bu kyun*** ピンサブ島。東経 98 度 02 分、北緯 11 度 44 分に位置し英領時代は Bentinck island と呼称した。ミエイ諸島中部の重要拠点となっている。
- c ***a le man kyun*** アレーマン島。東経 98 度 32 分、北緯 11 度 17 分：いずれの船団も生活物資の調達、獲物の販売、交換のために立ち寄る重要拠点である。マレー半島部のボーピン市に近く、ここから連絡を取ることが有利である。
- d ***lambi kyun*** ランピ島の *Ma kyoun ga let* マチョンガレー集落。東経 98 度 15 分、北緯 10 度 40 分：ミエイ諸島の中央部で船団が必ず立ち寄る集落で、ドンパレーオに次ぐ重要拠点である。サロンの停留地もある。
- e ***za det gyi kyun*** ザデジー島、*Kyat chaung* チャットチャウン集落。北緯 10 度 02 分、東経 98 度 12 分：遊動をミエイ諸島の南部まで行う船団の場合に停泊する可能性が高い集落。ミャンマー最南部の重要な島である。緊急時にはマレー半島部のコータウン市に連絡がとれる。

調査によると、各船団は図 10 に示した上記地点に立ち寄っている。もし重要な連絡地点を 4 地点あげるとするとすれば、a, c, d, e の地点が第一候補となるであろうし、さらに加えるとすれば b 地点をあげることができる。

これらの停泊地以外にも停泊する島嶼をあげることができるが、上記の地点が頻度的にも、物資の交換や購入などの点でもより重要である。今後、民族問題省などが、サロンを支援するための連絡拠点を設けるとすると、これらの地点を重点として連絡員や出来れば連絡場所を設置することが考えられる。

この調査は 2015 年から 2016 年において行われたものである。したがって、20 世紀初頭の White[2] や 20 世紀後半に行われた Ivanoff[3]らの調査環境とは違っているかもしれない。またサロン（モーケン）のライフスタイルや遊動にも多少の変化があった可能性もある。しかし、彼等が昔と変わらず、現在もまだ半年間は遊動に出ており、サロンに対する教育、医療、福祉、生活の支援などの諸問題を改善するためにも、この調査結果が役立つ日が来ることを願っている。

8. まとめと結論

ミャンマーのミエ諸島に生活するサロンは21世紀の現在では極めて少数になった遊動狩猟採集民族の1つである。

	主要停泊地	ID*
a	thayaw thatan gyi kyun (Done pu le aw)	45
b	pyinn sa bu nge kyun	125
c	a le man kyun	170
d	lan pi kyun (ma kyouu qa let)	194
e	za det kyil kyun (kyat chaung)	266

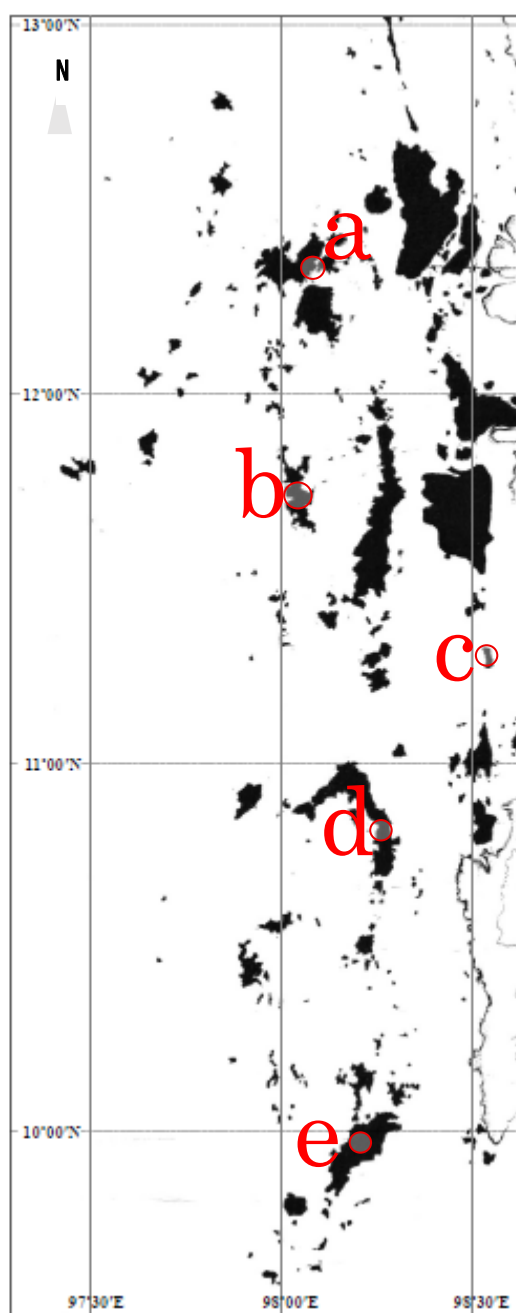


図 10. サロン船団の停泊重要地点

彼らはアンダマン海のミエ諸島を生活の場としており、1年の半分をミエ諸島の島々の海浜に小屋を建てて住み、残りの半年でアンダマン海を遊動している。家族全員が、*Kaban* (家船) に乗りこみ、ともに長期間の遊動を行って漁撈を行っている。この半年間の遊動とは、言わば「住所不明」の旅に出ているのであって、このことが、サロンが現代社会で国民として生きていく上で、直面する諸問題の重要な背景となっている。

サロンを取り巻く、現代的な問題としては子弟の未就学をはじめとして、無医療、貧困、麻薬使用、地震や伝染病の流行、戦争の危険などへの対応の遅れなど様々な難問があげられるが、その解決を難しくしているのは、彼らが遊動民であってその遊動の実態が不明であること、そして彼らが無文字社会に生きていることである。

そこで、彼らのライフスタイルの基礎を成している遊動の概要を把握しておくことは、学術的な関心はもとより、現実的に彼らの生活と福祉、人権を向上させるためにも不可欠な課題となっている。

この目的のために、本研究では以下の4点に限定して調査を行い、重要な遊動情報を収集することができた。

- 1) 従来、サロンは当てなく大海を彷徨する漂流民と考えられていたが、彼らは親族ごとの船団を組織し、計画的な航海を、安全第一に行っていた。なお航海の日程と航路、推定遊動距離などを明らかにした (表 1, 表 2)。
- 2) 表 3 に示したように、サロンの遊動の範囲はアンダマン海のミャンマー領を出ることがなかった。正確にはミエ諸島の北緯 9 度 43 分～13 度 01 分が南北の、東経 97 度 40 分～98 度 35 分が東西の遊動範囲であった。この範囲は一世紀以前に、民族学調査を試みた Lewis, C. C. がその著 “Salon” (1909 年刊) でサロンの分布域とした北緯 9 度 50 分～13 度 20 分と、東経 97 度 40 分～98 度 32 分と比較すると、やや狭くなっている [10]。この遊動範囲からしても、本調査対象のサロンがタイ側の同民族であるモーケンとなんらかの接触がないことは明らかであった。
- 3) これまでは未知であったサロンの遊動 (航海) 経路を明らかにした。得られた結果を図 2～図 9 に示した。
- 4) 遊動中に彼らが立ち寄る島嶼名を特定するこ

とができ、さらに大多数のサロングループが立ち寄る重要な島嶼名、集落、位置を確認した (図 10)。

これらの重要地点において、遊動中のサロンに対する接触が可能であり、様々な行政的なサービスや緊急情報を伝達でき、また人口調査をはじめ公民権の行使などの便をはかる可能性が期待される。

注1. アンダマン海：インド洋東部、マレー半島とアンダマン諸島及びニコバル諸島との間に位置し、北はミャンマーのマルタバン湾、南はマラッカ海峡に接している。

注2. ミエイ諸島：別名はベイ諸島。かつてはメルギー諸島と呼ばれた。タニンダーリ地方域の沿岸部約 400km に亘って約 800 の島々から成る。＜Ohsawa, Seiji et al. *Sorting out the changes and confusion of Meik Islands names in Myanmar*, Int. J. Hum. Cult. Stud. 2023, 33, pp.22-41.＞

注3. サロン（モーケン）：サロンはミャンマー側での呼称。サロンは、ミャンマー南部タニンダーリ地方域の海域に広がるミエイ諸島（約 800 島）を生活圏とし、その点在する島々を巡りながら家船で生活し遊動する。

注4. 遊動：本論で「遊動」とは単なる移動ではなく、生活全体を移動に依存させる広い概念を指す。サロンの家船を基盤とした海洋遊動を対象とし、移動そのものが生活様式の中核となっている点に注目する。

注5. 狩猟採集民については、Coon (1971)をはじめ多くの研究で論じられてきた。＜クーン C.S., 平野温美, 鳴島史之訳. 世界の狩猟民. 法政大学出版局, 2008. Coon, Carleton S. *The Hunting Peoples*, Atlantic Monthly Press, Boston, 1971.＞

注6. サロンの「時季」の捉え方について：サロンは航海や漁の時季の区切りを、近隣の定住民や交易などにより把握する。また、潮汐の変

化や満月、新月といった自然のサイクルも、移動や採集活動に不可欠な指標である。これらの知識は口承で継承され、サロンの生活文化の一部を形成している。

注7. 無文字社会：サロンの話す言語には文字体系が存在せず、知識は口承で継承される。

注8. 遊動民：Nomadic people. 定住せず移動しながら生活する民族。

注9. 人口調査：ミャンマー政府（移民・人口省）は、2024 年 10 月 1 日～15 日に実施された国勢調査の暫定結果を 12 月 31 日に発表し、総人口を 51,316,756 人と報告した。内訳としては実地調査がなされた 145 郡の 32,191,407 人と、安全保障上調査が困難だった他の郡の推計値 19,125,349 人を加えた数字である。調査完了率は 330 郡中約半数にとどまり、結果は暫定値として扱う必要がある。

"Welcome preliminary population statistics for the nation," Global New Light of Myanmar, 2025 年 1 月 9 日,

<[https://www.gnlm.com.mm/welcome-](https://www.gnlm.com.mm/welcome-preliminary-population-statistics-for-the-nation/)

[preliminary-population-statistics-for-the-nation/](https://www.gnlm.com.mm/welcome-preliminary-population-statistics-for-the-nation/)>
（参照日：2025 年 7 月 26 日）。

注10. 近年、海洋民としての伝統的漁撈生活は現金経済の圧力の中でこれまでにない困難に直面している。以前から一部の海洋民コミュニティにおける薬物使用の問題も指摘されている。

注11. 感染症の多くは停泊地の村落や沿岸での接触を通じて持ち込まれる。沿岸の汽水域や淡水域では、有機物の滞留や人為的排水の影響により細菌や寄生虫の密度が高く、熱帯性の感染症のリスクが上がる。家船での生活そのものが原因ではなく、持ち込まれた感染症が家族単位の密閉空間で拡大しやすい。さらに、医療処置へのアクセスが遅れることで重症化のリスクが高まる。

注12. 本論で「タイ人」とは、特定の民族や国籍を指すものではなく、現代タイ社会において定住を基盤とし、農耕や都市的な生活様式を営む人々を包括的に示す用語として用いる。これは、家船を拠点に移動を生活の基盤とするサロンの遊動的な生活様式との対照を明らかにするための記述上の枠組みである。

注13. 著者らがミャンマー民族問題省の情報をも

とに行った人口推定では、おおよそ 2,700 人近傍であった。＜Ohsawa, Seiji et al. *Sorting out the changes and confusion of Meik Islands names in Myanmar*, Int. J. Hum. Cult. Stud. 2023, 33, pp.22-41.＞

注14. 本論で言及する「雨季」は、ミャンマー南部タニンダーリ地方における南西モンスーン期（概ね 5 月～10 月）を指す。この時期は強風と高波のため家船での外洋移動が制限され、サロンは沿岸や島の入り江に仮小屋を設けて長期停泊する生活様式をとる。

注15. *Kaban* (カバン) : サロン語で「家船(えぶね)」を意味する。家族単位で使用し、生活拠点と移動手段を兼ねる。

注16. *Chapan* (チャパン) : 小型丸木舟。浅瀬での漁や移動、子どもの遊びに使われる。

注17. ウミガメ漁 : 伝統的な素潜り漁法。現在は自然保護規制の中で一部例外的に認められている。

注18. F.N.Cholmeley は Jacques Ivanoff とともに『*Moken: Sea-Gypsies of the Andaman Sea - Post-War Chronicles*』(1997) を著した研究者であり、戦後のモーケン社会に関する民族誌記録をまとめた。

注19. ダーウェイ語 (Dawei language) はミャンマー南部タニンダーリ地方のダーウェイ地域で話される言語で、モン・クメール系に分類される。島嶼名や地名の多くがダーウェイ語由来であり、サロンとの交流や交易の中で重要な媒介言語のひとつとなっている。

注20. 追跡的研究 : longitudinal study. 一定期間を通じて変化を追う調査手法。本研究は、サロンの遊動行動を現地観察と聞き取り調査によって記録し、生活と移動の関係を分析している。航海データの整理には、先行研究“*Sorting Out the Changes and Confusion of Myeik Islands Names in Myanmar*”, Ohsawa et al. (2023) で確定した島嶼名と位置情報を参照した。

注21. タニンダーリ地方域 : ミャンマー南部の沿岸行政区画で、サロンの主要居住地。

注22. Elphinestone Island は旧英領時代の地図に見られる名称で、現在のミャンマー行政地図や現地サロンの呼称とは異なる。本研究で用いる島名の整理は、先行研究“*Sorting Out the Changes and Confusion of Myeik Islands Names*

in Myanmar”, Ohsawa et al. (2023) に基づく。

注23. ドンパレーオ地区 : タヨータダンジー島内のサロンの主要な停泊・居住エリアのひとつ。複数の小島と沿岸の村落からなり、乾季の遊動時に重要な中継地となる。

注24. カイン族 (Kayin) : ミャンマー南部からタイ西部にかけて居住する山地民族の総称で、複数の言語集団を含む。本研究に関連する文脈では、沿岸部に居住するカイン族とサロンとの接触や交易関係が重要となる。

注25. サロン語 : サロン語はオーストロアジア語族に属するとされる言語で、文字を持たず口承で継承される。タイ側のモーケン語と近縁であり、単語や発音に地域差が見られる。

注26. 航海経路の記録 : 航海ルートは現地同行と口承による記録を組み合わせる再構成している。一行グループは複数の家族から構成されているため、各家族から別々に聞き取りを行い、その内容が一致することを確認してデータの信頼性を担保した。

注27. Clan (クラン) : 本研究では、複数の家族から構成される血縁・婚姻を基盤とした集団を指す。サロンの場合、船団単位で行動することが多く、生活・移動・漁撈活動がこの単位で組織される。

注28. ミャンマー暦 : ミャンマー暦 (Burmese Calendar) は太陽太陰暦で、グレゴリオ暦とはずれが生じる。新年は通常 4 月中旬で、季節や農業暦に密接に結びついている。サロンを含む多くの民族が生活周期をこの暦に合わせており、航海や祭礼の時期の判断に用いられる。

注29. GPS (Global Positioning System) : 人工衛星を用いた測位システム。研究調査では航海経路や位置情報の記録に利用される。

注30. Google Earth Pro : 本研究で使用した航路図は、Google Earth Pro imagery © Google. Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO. Image Landsat / Copernicus のデータを基に作成した。

注31. Cornes 海図 (Cornes Nautical Chart) は、19 世紀末から 20 世紀初頭に作成されたミャンマー南部、アンダマン海域の航海用地図で、当時のイギリス植民地時代の測量に基づく。測量責任者の名前 (H. C. Cornes) に由来。現在

も島嶼名や航路の海図として重要であり、現地で使われる島名と照合するための基礎資料として利用される。ここで使用しているものは以下の通りである。

MYEIK ARCHIPELAGO

Printed by 9638(P8030)-Cornes & Co Ltd (Yokohama) on 18 Jun 2019 07:47 UTC on Admiralty Chart Paper. Edition Number: 3, Edition Date: 21th Jan 2010, published at Taunton, Uniter Kingdom 5th September 1975 under the Superintendence of Rear Admiral G. P. D Hall, C.B., D. S. c., Hydrographer of the Navy. This chart includes copyright material published with the permission of the hydrographic offices of India and Burma.

謝辞

この研究は現地調査をはじめてから地図上の島嶼名の整理, 1 家族ごとの航海調査, データの整理, 論文の作製の全過程で 10 年余りの歳月がかかった。この間には現地タニンダリー地方域政府の首相をはじめ, タヨータダンジー島の小学校のドーザーウイン校長はじめとした教員の方がた, 現地のカレンのオピニオンリーダーの方々にお世話になった。Kinter Mapping Center ナインさんには貴重な助言をいただいた。

また, 元ミャンマー連邦共和国教育省教育訓練局長のウ・ボーウィン氏にははるばると現地まで同道いただき, 現地政府との調整をいただいた。また調査チームが滞在中の住居や食事の世話にいたる労をとられたドンパレーオ集落の方々, この調査にご協力いただいたドンパレーオに停留するサロンの皆様, 非常に細かな家族別航海資料のミャンマー語資料を整理していただいた浅野静二氏に深謝します。

付記

本研究は, JSPS 科研費 19H01612, 18H00967, 23K25610 の助成を受けたものです。



引用文献

- [1] Ohsawa, Seiji et al. *Sorting out the changes and confusion of Meik Islands names in Myanmar*, Int. J. Hum. Cult. Stud. 2023, 33, pp.22-41.
- [2] Anderson, John. *Mission to the East Coast of Sumatra and the Malay Peninsula in 1823*. London: W. H. Allen, 1826.
- [3] Lowis, C. C. *Salon*. Reprinted ed., Yangon, Myanmar Book Center, p.20. Originally published 1909.
- [4] White, Walter Grainge, F.R.G.S. *The Sea Gypsies of Malaya*. Reprinted ed., White Lotus, Bangkok, 1997, pp. 1-80. Originally published in London: Seeley, Service & Co., 1922.
- [5] Ivanoff, Jacques. *Moken: Sea-Gypsies of the Andaman Sea Post-war Chronicles*. Bangkok, White Lotus Press, 1997, p.159.
- [6] Ainsworth, Leopold. *A Merchant Venturer among the Sea Gypsies: Being Pioneer's Account of Life on an Island in the Mergui Archipelago*. Reprinted ed., Bangkok, White Lotus Press, 2002, pp. 1-279. Originally published in London: Nisbet & Co., 1930.
- [7] Bernatzik, Hugo A. [*The spirit of the yellow leaves*] *Die Geister der gelben Blätter: Forschungsreisen in Hinterindien*, Munich, F. Bruckmann Verlag, 1938, p.240 (in German). (in English translation by Dickes, Ernest Walter, *The spirit of the yellow leaves*, London, Robert Hale Limited, 1958, 222p.)
(ベルナツィーク著. 大林太良訳. 『ピー・トング・ルアング族民族誌 (付録)』黄色い葉の妖精: インドシナ山岳民族誌<東洋文庫>. 平凡社, 1968, pp.1-337)
- [8] Ivanoff, Jacques. *The Moken Boat: Symbolic Technology*. Bangkok, White Lotus Press, 1999, p.1-171.
- [9] Bernatzik, Hugo Adolf et al. *Moken and Semang: 1936-2004 Persistence and Change*. Bangkok, White Lotus Press, 2005, p.v- p.172.
- [10] Google LLC. Google Earth Pro™ (Version 7.3.6.10201). Mountain View, CA: Google, 2025.

付録 ミエ諸島の島名比較表 (1-287)

Ohsawa, Seiji et al. Sorting out the changes and confusion of Meik Islands names in Myanmar, Int. J. Hum. Cult. Stud. 2023, 33, pp.22-41.

	The British Period (data from AMS, 1927~1957)	After Burmese independence (data from UKHO Chart, 2009, 2010, 2019)	Local designation, romanization (2012)	Language Origin	Latitude (N) and Longitude (E) of Island Center	Elevation above Sea Level (Meter)	Area (square meter)	[*] is indicate to inhabited Island
1	Cochin Island	Cochin Island	near kyun	Burmese	13°01'26.26" N 98°18'58.54" E	173	1,380,000	
2	Tavov Island	Mali Island/Dawei Island	mali kyun	Myeik	13°05'37.37" N 98°52'29.95" E	684	97,010,000	*
3		Mali Kaing	mali nhget thike kyun	Burmese, Myeik	12°57'49.61" N 98°14'20.72" E	152	47,222	
4	Great Canister Island	Paine Kyun	pein ne kyun	Burmese	12°55'36.60" N 98°11'14.94" E	313	4,190,000	
5	Canister Bank	Kvunhla taung	kyun hla kyun	Burmese	13°01'47.95" N 98°28'03.27" E	163	243,169	
6	Anyinpo	Anyinpo Island	a nhynnn po kyun	Burmese	12°55'40.01" N 98°32'47.15" E	122	1,140,000	
7	Anvinma	Anvinma Island	a nhynnn ma kyun	Burmese	12°54'34.98" N 98°33'17.18" E	107	480,454	
8		Mali Don	mali nhget thike kyun	Burmese, Myeik	12°53'32.99" N 98°15'19.98" E	138	204,302	
9	South Island	Mali Nee	taung kyun	Burmese	12°53'17.23" N 98°18'38.96" E	158	2,080,000	
10	Little Canister Island	Shinham Kyun	sav tha mar kyun	Burmese	12°49'08.18" N 98°13'08.41" E	284	899,365	
11	Kabosa Island	Kabuzva Kyun	kunn thui kyun	Burmese	12°47'47.92" N 97°51'11.33" E	396	15,860,000	
12	Lons Island	Kadwe Island	kyun shay	Burmese	12°47'25.03" N 98°30'59.85" E	110	497,297	*
13	Iron Island	Thinhla Kyun	the mee hla kyun	Burmese	12°44'09.07" N 98°20'42.66" E	364	7,880,000	
14	Two Spade Island	Pvinban	pvin bann kyun		12°45'46.23" N 98°34'48.08" E		101,751	
15		Kyaukkan Island	kyauk kha van kyun	Burmese	12°43'53.63" N 98°33'25.14" E	36	7,940	
16	Kyumbon Island	Kyaukme Island	kyauk me kyun	Burmese	12°41'45.33" N 98°33'45.78" E		372,817	
17	Taungthonlon		taung thon lon	Burmese	12°42'19.38" N 98°18'32.55" E		394	
18		MARCUS GROUP	lay kyun	Burmese	12°38'36.70" N 98°13'00.89" E	140	203,556	
19	Sabahlaing Island	Sabahlaing Island	sa par hlaing kyun	Burmese	12°38'47.49" N 98°36'11.40" E		858,258	
20			kyun sinn ve	Burmese	12°36'55.51" N 98°26'26.34" E		7,650	
21		Thitva Kyun	thit var kyun	Burmese	12°36'51.27" N 98°33'47.94" E	34	5,400	
22	Tenasserim Island	Tanantthavi Kyun	ta nin tharvi kyun	Burmese	12°34'22.68" N 97°51'05.85" E	494	4,838	
23		Nea Kyun	near kyun	Burmese	12°34'44.28" N 98°24'18.88" E		17,780,000	*
24	King Island	Kadan Kyun	katan kyun	Burmese	12°30'31.40" N 98°22'15.01" E		14,584	
25		Sa Kyun	sarr kyun	Burmese	12°33'02.66" N 98°28'40.09" E	764	457,000,000	*
26	Mainay Island	Mainay Island	minnvi kyun	Burmese	12°31'26.78" N 98°15'12.55" E		542,264	*
27	Kalagun	Kalagun	kularr kyun	Burmese	12°25'57.28" N 98°29'39.73" E	577	48,170,000	*
28	Corbin Island	Corbin Island	sar tann gyii kyun	Burmese	12°28'55.99" N 98°08'59.48" E		64,640,000	*
29	Patow Island	Patow	pahtaw pahtet kyun	Myeik	12°26'43.37" N 98°34'52.43" E	136	2,430,000	*
30			thandar kyun	Burmese			3,810,000	*
31			mlivar thar su kyun	Burmese	12°27'30.56" N 98°16'08.52" E		6,793	
32	Myan-thon zon Island		taung thon lon kyun	Burmese	12°26'39.54" N 98°12'59.76" E	105	359,644	
33	Wilson Island, Evans Island, Peter scott Island		balun bale kyun	English	12°27'20.24" N 98°05'19.66" E	112	451,847	
34	Burne Island	Burne Island	yan nain kyun	Burmese	12°29'35.06" N 97°50'19.36" E	106	125,188	
35	Ramsey Island		padann kyun		12°26'53.37" N 97°49'32.15" E	285	4,410,000	
36	Blundell Island	Blundell Island	that pan kyun	Burmese	12°26'17.35" N 98°01'17.59" E	152	1,350,000	*
37	Castle Island		taung pan gyii kyun	Burmese	12°25'12.09" N 98°08'47.24" E	173	7,760,000	*
38	MacLeod Island	MacLeod Island	man gyii aw yuar	Burmese	12°24'14.14" N 98°14'06.57" E	68	85,409	*
39	Daughish Island	Daughish Island	yay myout kyun	Burmese	12°25'46.48" N 98°26'55.83" E		1,630,000	
40	Yemvok Island	Saddle Island	pha lun taung kyun	Burmese	12°23'48.47" N 97°54'37.54" E	78	69,105	
41	Christobal Island	Christobal Island	taung pan nge kyun	Burmese	12°23'07.85" N 98°08'18.31" E	136	908,167	
42	Johnny Island	Johnny Island	aut la e kyun	Burmese, Kavin	12°22'09.26" N 98°13'24.56" E	134	3,290,000	*
43	Pavi Kyun		pa yi kyun	Burmese ?	12°22'38.14" N 98°25'40.90" E		3,300,000	*
44	Elphinstone Island	Thavawthadanevi kyun	thayaw thatan gyi kyun	Burmese ?	12°20'45.91" N 98°01'58.97" E	536	122,030,000	*
45	Grant's Island	Grant's Island	ka naung kyun	Burmese	12°20'57.45" N 98°07'27.45" E	230	17,690,000	*
46	La-e-ale Island	La-e-ale Island	ahitet la e	Burmese, Kavin	12°20'14.33" N 98°14'48.71" E		1,400,000	*
47	Kuntang Island		kunn htaung kyun	Burmese	12°20'29.55" N 98°23'56.30" E		740,002	
48	Bertie Island	Ma-aing	ma aung kyun	Burmese	12°21'34.88" N 98°27'49.57" E		34,900,000	*
49			don pu le(nyauk)kyun	Burmese, Salom	12°19'20.42" N 98°04'13.46" E		775,808	
50	La-e-atet Island	La-e-atet Island	la e a hiet kyun	Burmese, Kavin	12°18'12.96" N 98°15'01.56" E	199	3,620,000	*
51	Pvinni kyun	Pvinni Kyun	pvin no	Burmese	12°19'47.81" N 98°25'33.84" E	89	465,360	*
52	Limmalo kyun		lin ma lo nge	Burmese	12°19'47.76" N 98°28'11.51" E			*
53		Smart Island	par pann kyun	Burmese	12°17'26.53" N 97°52'42.90" E	143	2,310,000	
54	Smart Island		the net tann kyun	Burmese	12°17'34.64" N 97°57'12.90" E		1,570,000	
55			bar ga kyun done pu le taungkyun	Salom	12°18'30.88" N 98°02'29.06" E		812,904	
56			taung wain kyun	Burmese	12°17'38.53" N 98°03'25.17" E		1,737,710	
57	Haycock Island	Haycock Island	kaug you bon kyun	Burmese	12°17'23.63" N 98°09'31.77" E	215	583,829	
58	Tatagi Island	Tatagi Island	tar ta gyii	Burmese ?	12°17'53.56" N 98°22'50.67" E		8,900,000	
59	Tatagi Island		tar ta nge	Burmese	12°18'07.74" N 98°21'29.34" E		1,760,000	
60	Talainsaing kyun		ta line sain kyun	Burmese, Mon	12°17'05.11" N 98°31'22.81" E			
61	Brunette Island	Brunette Island	taung ni nge kyun	Burmese	12°14'26.12" N 97°52'42.50" E	81	272,014	
62	Hummock Island	Hummock Island	bu lonn kyun	Burmese	12°15'36.26" N 98°09'48.65" E		273,592	
63	Mavan Island	Mavan Island	ma vann kyun	Burmese	12°14'57.50" N 98°16'32.73" E		76,763	
64	Lachi Island		la chay kyun	Burmese	12°16'40.87" N 98°21'01.22" E		36,250	*
65	Palok Island	Palok	tar ta gyii kyun	Burmese ?	12°16'31.40" N 98°25'50.49" E		429,231	*
66	Pana kyun	Panatkyun	phi nat kyun	Burmese	12°16'16.17" N 98°29'27.47" E		1,950,000	*
67	Greenlaw Island	Greenlaw Island	kyauk ka dwe kyun	Burmese	12°13'47.79" N 97°56'23.20" E	125	1,920,000	*
68	Lion Island	Lion Island	chin thay kyun	Burmese	12°12'56.06" N 97°58'21.64" E		16,565	
69	Ross Island	Dams Kyun	don kyun	Burmese, Salom	12°13'46.21" N 98°05'31.55" E	309	117,570,000	*
70			don sway thann	Salon, Myeik	12°14'05.50" N 98°09'18.90" E		184,940	*
71	McClelland Island	McClelland Island	kyuynn kant lant	Burmese, Myeik	12°13'31.10" N 98°12'48.66" E	82	241,430	*
72	Tawbva-nee	Tawbva-nee	taw pyar nge kyun	Burmese ?	12°14'53.86" N 98°26'26.26" E		467,935	
73	Pindon kyun		pin datt kyun	Burmese ?	12°14'54.18" N 98°26'25.91" E		26,298	
74	Himbok kyun		hinn bot kyun	Burmese, Dawei	12°13'33.20" N 98°25'11.15" E		604,153	
75			kyauk phyu tann kyun	Burmese	12°12'34.93" N 97°56'25.08" E		1,213	
76	Basham Island	Basham Island	ve le kyun	Burmese	12°11'30.18" N 98°02'50.00" E		1,260,000	*
77	Yenge kyun	Yenge kyun	vin kann kyun	Burmese	12°12'43.73" N 98°14'44.98" E	109	1,080,000	*
78	Griffith's Island	Griffiths Island	ngget pyaw kyun	Burmese	12°12'15.92" N 98°11'06.28" E	109	901,459	
79	Mergui Islands	Myeik Islands	myeik kyun su	Burmese	12°10'43.44" N 98°24'30.57" E	486	8,720,000	*
80	Hel-fer Island	Hel-fer Island	wa di kyun	Burmese	12°10'28.33" N 98°08'58.24" E	153	1,390,000	
81	Henry Island	Henry Island	nat tharr kyun	Burmese	12°08'43.96" N 98°03'25.37" E		111,573	
82	Pym Island	Pym Island	mat sauk kyun	Burmese	12°09'24.09" N 98°01'07.83" E	122	45,220	
83					12°09'56.56" N 98°07'39.82" E			
84	Kolan Island	Kolan Island	ko lan kyun	English	12°08'25.97" N 98°35'52.68" E		62,485	*
85			dunm gyii kyun	Burmese, Salom	12°07'54.30" N 98°08'02.60" E		539,982	
86	Martin Island	Martin Island	dunm nge kyun	Burmese, Salom	12°06'49.29" N 98°08'12.85" E	64	31,146	
87	Lyall Island	Lyall Island	wet pon kyun	Burmese	12°06'35.43" N 97°59'35.11" E	183	1,730,000	
88	Howe Island	Howe Island	kyauk ke tone kyun	Burmese	12°07'00.98" N 97°57'59.37" E		1,000,000	
89	Street Island	Street Island	taung kyun pon kyun	Burmese	12°05'54.77" N 97°58'28.64" E		1,310,000	
90	Thebyukyun		the phyu kyun	Burmese	12°05'15.95" N 98°36'43.92" E		86,141	*
91	Bailev Island	Bailev Island	jar bot kyun	Dawei	12°07'57.73" N 97°43'40.63" E	225	7,270,000	
92	Sargene Island	Sular Khamonk Island	su lar kha mauk kyun	Burmese	12°02'31.69" N 97°40'12.50" E	364	12,500,000	
93	Chester Island	Kyei Laik Island	kyei leit kyun	Burmese	12°02'47.35" N 97°46'20.66" E	340	2,250,000	
94	Lloyds Island	Mee Thaway Island	mii thway kyun	Burmese	12°03'21.89" N 97°57'36.76" E	224	4,460,000	
95	Drakes Island	Nat Thamee Yav Twin	nat tha mii yav twin kyun	Burmese	12°04'21.10" N 98°00'42.73" E	183	2,020,000	*
96	Kavo Island	Kar yar Island	karr yar		12°03'41.24" N 98°23'47.68" E	52	677,424	
97	Sellore Island		than bat pin kone	Burmese	12°04'26.76" N 98°28'14.01" E		139,096	
98	Ma-u-dams Island		ma u taung	Burmese	12°03'58.53" N 98°37'09.63" E		55,841	*
99			kyun kant lant	Burmese	12°03'04.08" N 97°56'29.27" E		14,183	
100								

*Blank columns are for islands whose names are unknown.

* We decline to accept some island names whose etymology is unclear.

The British Period (data from AMS, 1927~1957)	After Burmese independence (data from UKHO Chart, 2009, 2010, 2019)		Local designation, romanization (2012)	Language Origin	Latitude (N) and Longitude (E) of Island Center		Elevation above Sea Level (Meter)	Area (square meter)	[*] is indicate to inhabited Island
101	Criddles Island	Kyet Paung Island (Criddles Island)	khet paung kyun	Burmese	12°01'09.81" N	97°58'57.76" E	208	2,830,000	
102	Maka		maka	Burmese	12°02'10.05" N	98°37'12.03" E		33,847	*
103	uniacke Island	Ka Bin Island	ka bin kyun	Burmese, Salon	12°01'22.23" N	98°32'35.13" E		4,990,000	*
104	Mackenzie Island	Dana Theik Di Island	dana theik di kyun	Burmese	12°00'10.04" N	97°44'41.60" E	264	3,140,000	
105	Observation Island	Mee Nat Island	mii nat kyun	Burmese	11°59'27.93" N	97°55'05.33" E	169	1,490,000	
106	Christmas Island	Thar Myar Ami	thar myar a mi kyun	Burmese	12°00'04.96" N	98°08'35.32" E	137	448,735	
107	Pickwick Group	Siza-thitku Kyunzu	sa lon kyun	Salon ?	12°00'34.36" N	98°14'11.50" E	126	365,224	
108	Courts Island	Mee Sane Island	mii seinn kyun	Burmese	11°57'46.53" N	97°59'17.20" E	344	7,170,000	
109		Zalon Island	za lun kyun	Burmese ?	11°59'01.26" N	98°09'22.72" E	61	242,065	
110	Edmund Island	Ye Nsan Island	yay nyan kyun	Burmese	11°59'04.36" N	98°16'01.19" E	64	54,746	
111	Sellore Island	Sakhan Thit Island	sa khan thit kyun	Burmese	11°57'50.67" N	98°29'18.48" E	424	159,880,000	*
112	Parker Island	Wet Phyu Taung	wet phyu taung kyun	Burmese	11°57'30.13" N	98°14'53.24" E	166	14,030,000	
113	Amie Island	Kyun Mei Island	kyun hla gyii	Burmese	11°55'54.62" N	98°12'14.21" E	171	484,262	*
114	Star Island	Kye Island	khe kyun	Burmese	11°56'17.77" N	98°16'35.86" E	113	327,217	*
115	Reef Island		yay hmaw kyun	Burmese	11°55'14.52" N	98°16'35.97" E		48,419	
116	Sir John Hayes Island	East Sular	a shav su lar kyun	Burmese	11°55'11.09" N	97°39'25.80" E	487	22,700,000	
117	Rosv Island	Moe Ma Linn	mou ma linn kyun	Burmese	11°55'15.48" N	98°12'23.25" E	125	3,730,000	*
118	Sabe Kyun (Croter Island)	Duvur Islet	duu varr kyun	Burmese	11°53'10.27" N	98°16'53.21" E	321	23,010,000	
119	Tucker Island	Yaung Taung	yaung taung kyun	Burmese	11°50'35.31" N	98°28'53.28" E	211	7,530,000	*
120	Julian Island	Kaw Moe Island	kawt mou kyun	Burmese	11°50'37.36" N	98°25'09.67" E	134	1,120,000	*
121	Crown Island	Makaik Island	ma ko kyun	Burmese	11°50'33.52" N	98°04'43.82" E	61	13,495	
122	Marian Island	Ka Myinn Taung	kamvinn taung kyun	Burmese	11°50'45.28" N	98°11'55.20" E	143	2,170,000	
123	Jack Island	We Island	we kyun vwar	Burmese	11°51'13.49" N	98°17'50.73" E		147,247	*
124	Fletcher Island	Kunn Thee Island	kunn thi kyun	Burmese	11°48'53.19" N	97°39'26.69" E	268	3,320,000	
125	Thomson Island	Pvin Sa Bu Nee Island	pvinn sa bu nee kyun	Burmese, Salon	11°48'48.93" N	98°03'51.91" E	302	8,200,000	*
126	West Passage Island	Kyun Mye Island	kyun myii	Burmese	11°49'22.36" N	98°07'01.26" E	146	611,279	*
127	Monev Island	Ngwe Island	ngwe kyun	Burmese	11°49'48.31" N	98°16'26.03" E	338	14,650,000	*
128	Pigeon Island	Myauk Gaung Island	myauk gaung kyun	Burmese	11°47'01.82" N	98°12'45.82" E	83	282,864	*
129	South Passage Island	The Phyu Island	the phyu kyun	Burmese	11°45'39.21" N	98°06'48.37" E	129	515,480	
130			kyun bot kyun	Burmese, Dawei	11°46'15.67" N	98°18'19.21" E		634,779	
131	Great Western Torres	West Sular (Great Western Torres)	a nauk su lar kyun	Burmese	11°47'26.30" N	97°29'07.58" E	448	26,700,000	
132	North East Little Torres	North East Sular Nee	su lar kyun nee	Burmese	11°43'14.33" N	97°33'37.21" E	69	11,506	
133	Peak Island	Hlwa Sar Gvi Island	hlwa sar gyii kyun	Burmese	11°43'20.89" N	97°58'03.17" E		188,777	*
134	Bentinck Island	Pvin Sa Bu Island	pvinn sa bu kyun	Burmese, Salon	11°44'09.88" N	98°02'26.97" E	941	78,420,000	*
135		Sular Nee Islands	su lar kyun nee	Burmese	11°39'24.89" N	97°31'15.95" E	33	210,881	
136	Charlotte Island	Hlwa Sar Nee Island	hlwa sar nee kyun	Burmese	11°40'51.24" N	97°58'34.93" E		35,579	
137	Kissering Island	Kan Maw Island	kan maw kyun	Burmese	11°40'52.71" N	98°28'02.67" E	633	419,980,000	*
138	Domel Island	Pen Daun Island	do me kyun	Burmese?	11°35'47.85" N	98°14'39.06" E	325	252,890,000	*
139	Marble Isles	Kyauk Thin Hone Island	kyauk thin bon kyun	Burmese	11°34'09.84" N	98°18'44.78" E	261	650,871	
140	Tree Island	Kyet Sue Island	khet su kyun	Burmese	11°31'08.48" N	97°55'57.24" E		61,962	
141	Hngethaik Taung	Hnget Thaik Taung Island	yay aye hnget thaik kyun	Burmese	11°31'43.92" N	98°18'32.02" E	309	1,200,000	
142		Thone Ze	thonn sai kyun	Burmese	11°32'17.01" N	98°27'53.34" E		4,705	
143	Lalla Rock Island	La Thar Island	la thar kyun	Burmese	11°30'30.83" N	98°29'23.10" E	32	46,858	
144	Flat Island	Kyauk Pvin Island	kyauk pvinn kyun	Burmese	11°30'47.34" N	97°55'39.05" E		150,799	
145	Observation Island	Hmet Island	mhiet kyun	Burmese	11°28'27.85" N	98°07'35.37" E	70	102,655	
146	Vera Island	Pawei Nee Island	par we nee kyun	Burmese	11°28'31.03" N	98°31'23.60" E	90	218,052	
147	Maria Island	Saw Mon Hia Island	saw mun hla kyun	Burmese, Kayin	11°26'55.22" N	97°59'44.33" E	175	6,790,000	
148	High Peaked Island	Hteik Myint Island	hteik myint kyun	Burmese	11°26'58.11" N	98°08'07.35" E	302	4,770,000	
149	Violet Island	Mva Lav Island	mya lav kyun	Burmese	11°25'47.81" N	98°00'51.99" E	14	283,782	
150	North Park Island	Myauk U Yin Island	myauk u yin kyun	Burmese	11°24'36.90" N	98°16'29.58" E	160	572,150	
151	Pawe Kyun	Pawei Kyun	par we kyun	Burmese	11°25'36.56" N	98°30'17.56" E	202	10,750,000	
152	Eliza Island	Saw Pu Island	saw pu kyun	Burmese, Kayin	11°23'41.53" N	98°00'00.04" E	204	4,740,000	
153		Khin Saw Island	khin saw kyun	Burmese	11°23'16.68" N	98°01'53.48" E	56	30,146	
154	BUSHBY ISLAND	Taw Wet Island	taw wet kyun	Burmese	11°23'35.25" N	98°07'40.92" E	306	13,890,000	
155	Cone Island	Leik Khon Island	leik khon kyun	Burmese	11°23'35.35" N	98°05'34.97" E	65	44,825	
156	Carew Island	Thamachok	than na chout kyun	Burmese	11°23'16.52" N	98°13'26.55" E	182	971,697	
157	South Park Island	Taung U Yin Island	taung u yin kyun	Burmese	11°23'47.67" N	98°16'15.61" E	206	2,090,000	
158	Ravenshaw Island	Zaw Yaw Kyun	zaw yaw kyun	Burmese	11°21'27.44" N	98°14'41.44" E	302	4,370,000	*
159	Molly Island	Ye Waddy Island	yay wa thi kyun	Burmese	11°21'17.89" N	98°25'25.07" E	36	124,739	
160	Robert Island		yaw bart kyun	Burmese, English	11°23'58.10" N	98°29'27.16" E		63,711	
161	Lawrence Island	Thu Ta Island	thu ta kyun	Burmese	11°20'03.59" N	98°26'57.14" E	81	71,355	
162	Warden Island	Warden Island	nat yay kan kyun		12°08'03.24" N	97°59'54.23" E	246	1,830,000	
163	Quoin Island	Quoin Island	nat tha mii kyun		12°08'02.91" N	98°03'51.33" E		595,986	
164	Jane Island	Mwe Me Neik Island	mwe ma neit kyun		11°21'29.89" N	98°00'35.12" E	207	970,153	
165	Anne Island	Hlaing Island	hlaing kyun	Burmese	11°20'12.42" N	98°00'06.98" E	204	1,620,000	
166	Charlotte Island	Khin Pvi Son Island	la ngann poo warr kyun	Burmese	11°19'09.21" N	98°00'44.52" E	157	1,330,000	
167	Mav Island	Khin Phone Island	khin pun kyun	Burmese	11°18'37.72" N	98°01'42.18" E	78	95,072	
168	Katharine Island	Kathit Island	ka thit kyun		11°18'32.31" N	98°12'33.12" E	75	82,247	
169	Sir I. Malcom Island	Pa Lei Kyun	pu lei kyun	Burmese	11°17'40.13" N	98°14'38.07" E	376	23,000,000	*
170	Malcolm Island	Ale Man Island	a le man kyun	Burmese, Mveik	11°17'27.22" N	98°32'27.57" E	274	8,030,000	
171		Aung Bar Lai Island	aung bar hlaing kyun		11°16'47.05" N	98°27'27.08" E	114	178,685	
172	Cooper's Driver Island	Yan Ywe Island	yan ywe kyun		11°16'48.31" N	97°55'26.03" E		399,422	
173	Barbara Island	Barani Island	pu lei kyun	Burmese	11°16'55.21" N	98°12'18.67" E	79	93,243	
174	Son Island	Thar Island	thar kyun	Burmese	11°12'15.23" N	98°04'58.48" E	107	74,852	
175	Father Island	A Pha Island	a pha kyun	Burmese	11°11'35.12" N	98°05'07.30" E	186	313,201	
176	Owen Island	Ka Mar Island	kamar kyun	Burmese	11°13'40.90" N	98°15'15.19" E	472	27,420,000	
177		Da Nyin Island	da nyinn kyun		11°11'48.21" N	98°16'05.19" E	107	266,935	
178	Bernard Island	Ngar Kyun Gvi Island	ngar kyun gyii	Burmese	11°10'50.24" N	98°15'21.33" E	191	1,390,000	
179	Pulo Ampat	La Chann	la chann kyun	Burmese	11°10'21.54" N	98°36'38.89" E	70	46,855	
180	North cone Island	Myauk Leik Khon Island	myauk leik khon kyun	Burmese	11°08'22.44" N	98°35'39.48" E	30	6,619	
181	Pulo kvin Neai (Butler)	Thin Gan Island	kyin gan kyun	Burmese	11°07'04.16" N	98°31'35.86" E	69	329,975	*
182	Pulo Panyan (Rodgers)	Pan Yaung Island	pan yaung kyun		11°05'39.27" N	98°28'16.61" E	73	347,421	
183	Pulo Tiga	Thon Pwint Island	thonn pwint kyun		11°06'17.46" N	98°37'07.74" E		130,011	
184	Kveinidaung	Kvein Mi Island	kyein mi taung	Burmese	11°04'13.38" N	98°37'00.15" E		442,269	*
185	Pulo Talut	Ka Lat Island	ka lat kyun		11°03'12.41" N	98°27'25.62" E	42	9,726	
186	High Island	Sin Kyun	sin kyun	Burmese	11°01'20.82" N	98°18'28.68" E	428	6,920,000	
187	Forbes Island	Kau ve Kyun	kawt ve kyun		11°00'27.01" N	98°31'05.49" E	162	66,810,000	*
188	Colies Island	Ko Nyin Phyu Kyun Nee	ka nyinn phyu kyun nee		10°59'21.77" N	98°26'47.93" E	123	12,260,000	*
189	Pulo Cabani (Olive Island)	Than Lwin Island	ba htet chaint kyun	Burmese	10°58'29.15" N	98°12'53.57" E	121	194,867	
190			linn pain kyun	Burmese	10°55'42.06" N	98°14'43.70" E	66	153,792	
191	Pulo Sum		ngheet pyaw kyun	Burmese	10°57'09.19" N	98°33'29.84" E		184,896	*
192	Clara Island	Kyun Me Gyee	kyun me gyii kyun	Burmese	10°53'51.02" N	97°55'08.17" E	534	37,240,000	
193	Kanazavi Island	Kan Za Gvi	kan za gyii kyun		10°52'43.84" N	98°00'23.89" E	173	2,350,000	
194	Lampi Island (Sullivan)	Kyun Taun Shet (Lampi Island)	lan pi kyun		10°52'22.21" N	98°13'45.99" E	462	187,050,000	*
195	Dolphin Island	Warr Island	warr kyun	Burmese	10°54'54.75" N	98°15'01.49" E	72	445,850	*
196	Riou Island	Lin Ban Island	lin bann kyun	Burmese	10°55'54.79" N	98°26'07.04" E	65	376,547	*
197			warr kyun taung nee	Burmese	10°54'01.90" N	98°15'32.18" E	80	145,063	
198	Trinity Group	Thone Zu Kyauk	thonn su kyauk	Burmese	10°55'57.83" N	98°29'58.82" E		28,941	
199	Kyawkme Taung	Kyaukme Taung	kyauk me taung	Burmese	10°54'16.20" N	98°32'07.38" E		10,221	
200	Mingvi Sakan (Warrington)	Mingvi Sakan	minn gyii sa khann	Burmese	10°53'26.07" N	98°28'24.91" E		1,440,000	

*Blank columns are for islands whose names are unknown.

* We decline to accept some island names whose etymology is unclear.

The British Period (data from AMS, 1927~1957)	After Burmese independence (data from UKHO Chart, 2009, 2010, 2019)	Local designation, romanization (2012)	Language Origin	Latitude (N) and Longitude (E) of Island Center		Elevation above Sea Level (Meter)	Area (square meter)	[*] is indicate to inhabit Island
201	Kandaw(Alice Island)	Kan Daw Island	kann daw	Burmese	10°53'05.15" N 98°32'17.13" E	79	1,360,000	
202	Kveinni Taung	Kveinnitang	kvein me	Burmese	10°55'58.87" 98°38'04.70"		184,412	
203	Kubo Island	Ko Phawt Island	ko phawt kyun	Burmese	10°51'02.26" 98°11'21.96"	204	3,720,000	*
204	Lefwe Kyun	let we kyun	let we kyun	Burmese	10°50'25.19" 98°29'01.37"		779	
205	Sir Robert Campbell	Sit The Kyun Gvi	sit thi gyi kyun	Burmese	10°49'47.19" 98°31'45.30"	76	59,430,000	*
206	Thiho Kyun	thi ho kyun	thi ho kyun	Burmese	10°48'03.30" 98°27'38.56"		2,841	
207	Pulo Tika(Nine-pins)	Kyauk Koe Lone	kyauk kou lonn kyun	Burmese	10°47'04.16" 98°04'07.75"	91	82,141	
208			nghet ma narr kyun	Burmese	10°47'40.79" 98°32'58.38"		1,400,000	
209	Pulo Tajam(Red Island)	Kyun Ni	kyun ni	Burmese	10°42'06.38" 98°01'25.30"	47	45,662	
210	Observation Island	Kyun Thone Lon	kyun than lonn	Burmese	10°40'56.28" 98°10'59.24"	42	11,557	
211	Leik-u kyun(Crichton)	Lake U Island	leik u kyun	Burmese	10°42'36.58" 98°21'24.03"	33	31,466	
212	Wa Kyun	Wa Kyun	tha kyun	Burmese	10°41'14.27" 98°20'27.30"	53	472,047	
213	Pulo Nala(Fyies Island)	Bo Cho Island	bo cho kyun	Burmese	10°39'59.36" 98°15'01.07"	194	7,350,000	*
214	Pulo Myang	Than Dar Phyu Island	than dar phyu kyun	Burmese	10°39'36.94" 98°20'33.73"		116,851	
215	Pulo Myang Basa	Than Dar Ni Island	than dar ni kyun	Burmese	10°38'32.38" 98°21'25.36"	71	1,290,000	
216	North Twin	Mvauk Taw Win	mvauk na winn kyun	Burmese	10°38'14.57" 97°42'02.49"	137	307,824	
217	Pulo Kusvi(Sleep Island)	Gu Gvi Island	gu gyi kyun	Burmese	10°38'14.52" 98°15'25.92"	109	1,100,000	
218	Pulo Pan Kyun	Bo Ywe Island	bo ywe kyun	Burmese	10°34'53.82" 98°02'39.22"	135	1,710,000	
219	Pulo Set(Peaked Island)	Nga Mann Island	nga mann kyun	Burmese	10°34'03.55" 98°05'41.06"	207	1,200,000	
220	Saucer Island	Paan Pva Island	pu gan kyun	Burmese	10°34'52.71" 98°14'45.68"	85	94,966	
221	Pulo Tuhau(Boval Island)	Than Dar Net Island	than dar net kyun	Burmese	10°35'35.08" 98°20'33.72"	59	273,691	
222	Pua (Polo Jilan Kyun)	Kyun Phi Lar	kyun phi lar	Burmese	10°33'26.11" 97°59'31.73"	228	20,600,000	
223	Pulo Balu(Sir Joseph)	Bo Net Kyaw Island	bo net kyaw kyun	Burmese	10°33'19.54" 98°13'48.93"		2,360,000	*
224	Pulobada (Sir William)	Nvaung Wee Island	nvaun wii kyun	Burmese	10°30'26.09" 98°12'57.02"	351	19,880,000	
225	Pulo Salangin	Zi Wa Zoe Island	aung bar nghet thik kyun	Burmese	10°31'03.76" 98°26'41.36"		47,093	
226	South Twin(Western)	Taung Taw Win	taung na winn	Burmese	10°27'52.06" 97°39'04.93"	82	719,742	
227	Loushborough Island	Jar Lann Kyun	jar lann kyun	Burmese	10°26'44.28" 97°54'58.12"	444	33,350,000	
228			115	Burmese	10°28'23.41" 98°09'45.93"	115	670,179	
229	Pocock Island	Bo Yar Nvunt Island	bo yar nvunt kyun	Burmese	10°27'09.24" 98°13'00.63"		2,290,000	*
230	Saddle Island	Kon Hnee Island	kho nii kyun	Burmese	10°26'10.50" 98°16'50.67"	93	233,596	
231	Pulo Baleih		pu law bar line	Burmese	10°26'41.99" 98°28'18.85"		311,853	*
232	Cat and kitten	Kyaung Mi Thar Su Kyun	kyaung mi thar su kyun	Burmese	10°24'17.07" 98°17'23.96"	70	265,727	
233		Kho Kyun	kho kyun	Burmese	10°22'00.22" 98°27'42.38"		112,287	
234	Ouoin Island	Nar Nat Thee Island	nar nat thi kyun	Burmese	10°21'14.91" 98°03'57.62"	110	219,397	
235	Cavern Island	Hlaing Gu Island	hlaing gu kyun	Burmese	10°20'08.01" 97°59'32.78"	268	3,680,000	
236	Pine Tree Island	Kyun Pva Gvi Island	kyun pva gyi	Burmese	10°20'26.48" 98°17'26.85"	62	1,300,000	
237	The Five Islands	Pvin Sa Dea Islands	pxin sa di na kyun	Burmese, Pali	10°16'40.94" 98°21'19.09"		25,319	
238	Two Tree Island	Thit Hna Pin	thit nha pin kyun	Burmese	10°16'15.29" 98°14'07.74"	67	32,127	
239	Southeast Hump	Taung La Bo	taung la bo kyun	Burmese	10°16'05.22" 98°19'07.81"	97	182,847	
240	Russell Island	Shwe Kyun Gvi	shwe kyun gyi	Burmese	10°14'56.39" 98°14'44.25"	267	3,160,000	
241		Shwe Kyun Lay	shwe kyun nge	Burmese	10°13'18.07" 98°14'30.13"	76	161,223	
242	Pulo Mah Puteh(Woodv)	Ma Pu Tav Kyun	ma pu tay kyun	Burmese	10°11'38.55" 98°28'09.56"		165,037	
243	Horsburgh Island	Nga Khin Nyo Gree Island	nga khin nyo gyi kyun	Burmese	10°12'11.63" 97°52'24.38"	74	1,360,000	*
244		Lei Ywei Lay Lone	let yway lay lon kyun	Burmese	10°11'58.31" 97°58'19.96"	132	840,516	
245		Oo Gho Island	uu cho kyun	Burmese	10°10'20.74" 98°08'47.31"	82	115,579	
246	South Hump Island	Na Wa Day Island	na wa day kyun	Burmese	10°11'03.08" 98°19'47.30"	53	20,213	
247	Parsons Island	Nge Lon Lett Phei Island	nga lon let phe kyun	Burmese	10°10'23.24" 98°01'46.21"	275	3,570,000	
248	Mackay Island	Ahtet Le Ywe Island	a htet let yway kyun	Burmese	10°09'43.46" 97°55'08.06"	186	959,690	
249	Macleod Island	Kho Yinn Khwa Island	ket yinn khwa kyun	Burmese	10°09'30.36" 97°58'40.21"	325	6,370,000	*
250		Thura Island	thu ya kyun	Burmese	10°08'48.06" 98°02'57.56"	88	80,647	
251		Maung Yin Island	maung yin kyun	Burmese	10°08'00.68" 98°00'38.50"	162	269,664	
252		Kvant Island	kvant kyun	Burmese	10°09'42.08" 98°07'24.74"	61	40,834	
253	Saint Lukes Island	Za Det Kale Kyun	pa law kar kvann kyun	Burmese	10°08'59.19" 98°11'40.63"	484	44,139,000	
254	Saint Pauls Island	Thit Sar Island	thit sar kyun	Burmese	10°08'54.56" 98°08'55.85"		3,760,000	
255		Thit Sar Island	thit sar kyun	Burmese	10°08'27.67" 98°03'12.70"	70	71,684	
256	North Phinos Island	Mvauk Ni Island	mvauk ni kyun	Burmese	10°10'18.21" 98°16'38.99"	110	449,896	
257	Barwell Island	Thay Yae Island	thay vi kyun	Burmese	10°08'02.60" 98°19'36.33"	106	1,710,000	
258	Hattinge Island	Za Det Nee Island	zar det nge kyun	Burmese	10°06'39.77" 98°17'45.95"	266	14,260,000	
259	Mackenzie Island	Nvaung Oo Phee Island	nvaung uu phui kyun	Burmese	10°04'20.98" 97°59'09.29"	238	2,220,000	*
260	Macbride Island	Nga Htway Rue Island	nga htway yuu kyun	Burmese	10°02'46.50" 97°59'28.17"	218	1,180,000	
261		Zar Ni Island	zar ni kyun	Burmese	10°03'06.03" 98°12'56.99"	174	1,760,000	
262	Pulo Remiah(Turtle)	Se My Island	leik kyun	Burmese	10°04'34.86" 98°30'24.48"	18	32,552	
263	Pulo Jitan	Nwa Nge Kyun	sit kain kyun	Burmese	10°01'18.43" 98°35'07.96"		175,289	
264								
265		Sa Lon Kyun	sa lon kyun	Burmese, Salon	9°59'39.30" 98°29'00.45"	196	2,980,000	*
266	Saint Mathew's Island	Za Det Gvi Island	za det gvii kyun	Burmese	9°57'59.84" 98°11'24.25"	863	179,230,000	*
267		Mvin Sei Kyun	mvin sai kyun	Burmese	9°58'35.08" 98°29'35.58"	146	510,212	
268		Ba Yint Naung Point	bu yint naung a ngu	Burmese	9°58'33.25" 98°33'10.38"			*
269		Shar Kyun	shar kyun	Burmese	9°55'55.55" 98°31'47.79"	113	352,374	
270		Thu Hlay Kyun	thu hlay kyun	Burmese	9°56'37.62" 98°31'38.41"	186	7,910,000	*
271		Khaung Taing Island	kaung tain kyun	Burmese	9°51'20.80" 98°02'56.32"	43	8,832	
272		Thau Kyun	than kyun	Burmese	9°48'54.93" 98°01'58.57"	455	28,900,000	
273		Kva Hain Island	kva nai kyun	Burmese	9°49'36.16" 98°06'47.11"	113	443,198	
274		Hmvaw Cin Rock	mvaw sin kyun	Burmese	9°49'42.90" 98°12'04.68"	143	97,301	
275		Lon Khwet Island	lunn khwet kyun	Burmese	9°48'51.47" 98°11'54.60"	212	310,474	
276		Sav Tan Island	savy tan kyun	Burmese	9°47'41.86" 98°06'45.07"	238	2,190,000	*
277		Tham Kyun Nee	than nge kyun	Burmese	9°46'10.64" 98°01'32.84"	143	880,884	
278		Kvet Mauk Island	kyet mauk kyun	Burmese	9°45'44.72" 98°09'17.80"	201	1,300,000	
279		Hman Ain Island	mhan ein kyun	Burmese	9°45'25.15" 97°59'24.59"	137	166,697	
280		Ye Met Island	ve met kyun	Burmese	9°43'18.34" 97°59'38.48"	64	133,846	
281		Saung Gauk Island	saung kaut kyun	Burmese	9°42'32.31" 98°06'13.99"	292	4,520,000	*
282		Ta Bin Taing	ta pin dai kyun	Burmese	9°40'59.78" 97°54'18.77"	70	56,488	
283		Bvan Hlwar	pyan luar kyun	Burmese	9°40'00.12" 98°05'18.18"	88	105,941	
284		Hngat Khar Island	ngat kharr kyun	Burmese	9°38'52.01" 98°02'22.81"	164	572,692	
285		Moe Thauk Island	mou thauk kyun	Burmese	9°38'56.65" 98°05'14.09"	183	2,550,000	
286		Christie Island(Tauna)	tauna kyun	Burmese	9°37'38.80" 97°58'20.31"	324	5,080,000	
287		Murray Island	tauna sunn kyun	Burmese	9°36'00.10" 97°58'08.61"		50,981	

*Blank columns are for islands whose names are unknown.

* We decline to accept some island names whose etymology is unclear.

Abstract

The migratory behavior of the Salon (Moken) people in the Andaman Sea has been largely ignored and unrecorded in previous ethnographic studies. As a result, the full picture of the Salon lifestyle has remained incomplete.

Since half of their annual activities consist of migratory behavior at sea, it is impossible to fully understand the Salons without clarifying their migratory behavior. Additionally, as a practical matter, it is impossible to clarify and address issues related to their population, composition, education, healthcare, welfare, and other aspects of survival and daily life.

This study was conducted with both academic interest and the aim of understanding the migratory behavior that forms the foundation of their practical issues.

This survey targeted 72 families and 462 individuals in the salon, documenting the entire process from departure to arrival, including navigation routes, the number of days spent in migration, the islands visited, and the estimated shortest migration distance.

The survey results revealed that the 72 families were divided into nine groups, with each migration lasting between 50 and 110 days, and the shortest migration distance ranging from 500 to 1,600 km. The migration range was defined as east-west between 97°30'E and 98°30'E east longitude and north-south between 9°45'N and 13°05'N+ north latitude, with no instances of straying outside this area.

The islands visited during migration were also identified, and specific key locations were also determined. We hope that these findings will contribute to population surveys in Salo and improvements in living conditions (education, healthcare, welfare, and the exercise of civil rights) and we anticipate that they will be effectively utilized by relevant parties.

(受付日：2025 年 8 月 5 日，受理日：2025 年 10 月 10 日)



大澤 清二（おおさわ せいじ）

現在：大妻女子大学人間生活文化研究所特別研究員
大妻女子大学名誉教授

プロフィール：

（一社）日本ミャンマー友好協会副会長．日本発育発達学会会長（2015 年～2021 年）名誉会員．
1946 年埼玉県生まれ．東京大学大学院終了後，教育学博士，東南アジア医療情報センター，筑波大学を経て，大妻女子大学に勤務した．同副学長（2013 年～2020 年），同人間生活文化研究所所長など（2009 年～2020 年）．1980 年代より東南アジア諸民族の生活，健康，発育などの研究に従事，現在は狩猟採集民の調査を行っている．2025 年春の叙勲で瑞宝中綬章を受ける．

主な著書：

Ohsawa, Seiji. et al. *Sorting out the changes and confusion of Meik Islands names in Myanmar*, Int. J. Hum. Cult. Stud. 33, 2023, pp.22-41.

Ohsawa S (ed), et al. *Comparative study on the growth of Thai and Japanese children*. International Medical Foundation of Japan. 1995; 141p. など